

2024年12月1日

2024年キャリア体験学習【国際】ベトナム 報告書

目次

現地活動の概要	2
ベトナムで生きる日本人～それぞれのキャリアインタビュー	
Sさん（男性）ベトナム在住約25年	3
女性 50代前半 ピアノ講師 ベトナム在住27年	30
男性 63歳 ホーチミン日本人学校教師 ベトナム在住約7年	44
ICD ベトナム インターンシップ報告	59
参加者コラム～それぞれのベトナム	
伊藤 早慧	64
小松崎 万絢	66
蛭田 明花音	68
油井 千明	71
河内 璃子	74
相楽 空	75
仲本 瑞希	77
遠藤 直	80
藤尾 美玖	82
阿部 礼佳	85
ホーチミン穴場マップ（参考）	89
研修参加者一覧	90

現地活動の概要

2024年度の現地研修は例年通りホーチミンテクノロジー大学 (HUTECH) 日本学部の全面協力のもと、ベトナムの大学生との協同による調査活動を実施した。現地活動は大きく分けて以下の3項目である。

1, HUTECH との共同調査

ベトナム・ホーチミンを訪れる外国人旅行者にぜひ行ってほしい、見てほしいスポットをベトナムの大学生のアンケートから割り出し、実際に訪問し取材する。その調査結果をもとに「ホーチミンの人たちが推す穴場スポット」マップを作成する。

2, ベトナムで暮らす日本人のキャリアインタビュー

ベトナムに定住する日本人に対し、そのキャリアヒストリーをキックインタビューを実施する。海外で生きることを選択した彼らの願いや葛藤を読み取る。

3, ベトナムで事業展開する日系企業でのインターンシップ

ベトナムで事業展開する日系企業でのインターンシップを通じて、ベトナム人と日本人がどのように協働し目標を達成するのか、を実際に体験する。

当報告書は、これらの活動の全記録である。

ベトナムで生きる日本人～それぞれのキャリアインタビュー

S さん 男 50代後半 日系航空会社ホーチミン空港オフィスマネージャー ベトナム
在住約25年

インタビュー実施日 2024年9月10日 ホーチミン市内にて 聴取者:小松崎万絢 伊藤早慧

●まずは簡単なプロフィールからお願いします。キャリアや家族構成、出身など。

私はベトナムに来て 25 年、現地の日系航空会社で働いて 24 年目になります。元々は日本でサラリーマンをしていましたが、その会社を退職し、ベトナムに語学留学という形でホーチミンへ住みました。その一年後に現地の航空会社で働き始め、現在に至ります。家族は私とベトナム人の妻と娘が 2 人います。長女は高校生で次女は中学生です。妻と娘は既に日本に移住しており、私は 2 年半ほどここホーチミンで单身生活をしています。私は現在 57 歳なのですが、ベトナムの定年が 62 歳なので、あと 5 年ほどで、定年退職という形になります。

●定年まではこちらで働く予定ですか？

私としては定年してもベトナムで生活したいのですが、家内は早く日本へ帰ってこいと言っています、嫁は日本でベトナム料理の店を開きたいらしく、でも 1 人ではいろいろと負担が大きいので、手伝えるために早めに帰ってこい。

なので、定年になったら一応帰る予定にはしているからと話はしています。

現在の私のホーチミンでの生活は、ほとんど家と空港の行き来だけです。

今は早朝の便と夜の便があり、シフト制で仕事をしています。朝であれば朝の便の業務を連続で、夜の便であれば夜の業務を連続でという感じです。

とりあえず、今こんな状況で、20 何年もいて、お話できることはあまりないかもしれません。

●いや、もう今聞きたいことはたくさんあって、、、日本で働いた後になぜベトナムに行こうと思ったのですか。

元々は、日本の保険会社に勤めていました。で、保険会社の方で諸々事情があり退職をした時に、先輩の知人がタイで事業をしているということで、そっちを手伝わないかという話がありました。それで会社を退職してすぐにタイへ行きました。そして話を現地で聞いてみ

たところ仕事の内容がマルチっぽい仕事で、これはダメだなと思い、早々にお話をお断りしました。ただ、来てとんぼがえりももったいないと思い、時間はあったので、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナムを3ヶ月くらいかけて回っていました。ほとんどバックパッカーみたいな感じで。

●じゃあ荷物は少ない状態で？

その通りです。仕事も辞めたばかりで、あわよくばそのままタイで仕事できるのかなと思ったものですから。それがなくなったので、なるべくしてというか、バックパッカー状態になってしまいました。そこで様々な人と知り合って、最終的にベトナムに移住してしまったという形です。当初はベトナムへ移住するという覚悟が何もなく、日本に帰ってゆっくり考えようと思いその後も日本でも就職活動はしていましたが、ベトナムとカンボジアで、3ヶ月の滞在期間中に、現地に住んでいる日本人の働いている人たち、そして留学生など、さまざまな人と知り合いました。そういった方と知り合う機会があって、日本に帰って就職活動をしながら何か悶々とするものが出てきてしまって、海外で仕事をしている日本人が少なにいるのであれば、仲間に入ってみたいなど。数ヶ月間、就職活動を日本でしましたが、それを途中で切り上げて、日本での諸々の生活をすべて清算してベトナムに行きました。ただまだその当時はどこに住むかは決めていませんでした。最初にタイに入り、タイの知人から色々な話を聞きながら、その後ラオスにまた入って、その次ベトナムに来て、カンボジアへ行って、最終的にベトナムに行き着いた理由は、ベトナム語がアルファベットを使っていたからです。これはもしかしたら簡単に習得できるかもしれないと思って、最終的にベトナムに住むことになったのですが、これが大きな間違いで。

こちらで暮らしていた友人が言うには、このアジア地区で1番難しい言語がベトナム語だと。私には広東語が話せる友人がいるのですが、その友人曰く広東語もベトナムと同じで、声張が6声調ある言語だけれども、それより格段にベトナム語の方が難しいと言っていました。ですので、ベトナムに来て1年留学しましたが、正直1年では流暢にはもちろん喋れないし、相手の言っていることを100パーセント理解するのはまず無理でした。

でもみんな短期留学とかだと1年以内とかの留学で帰ると思うのですが、多分1年ではベトナム人と円滑にコミュニケーションを取るのには難しいと思います。

1年目は込み入った話はほとんど分からず、学校には通っていましたが、状況は変わりませんでした。簡単なベトナム語は通じていましたが。

2年目に自分の言っていることをある程度理解してもらえるようになったけど、相手の言っていることが2割か3割しかわからずで。3年目になってやっと会話が成立するようになるのですが。多分もう、ずっとみっちりしっかり勉強していればもう少し早くベト

ナム語を話せるようになったとは思いますが、でもそれだけベトナム語はとても難しかったです。

● 日常生活で使っていてもそこまで難しいんですね。

そうです。日常生活ではいつもポケットにメモ帳を忍ばせていて、そのメモ帳にベトナム語と読みをカタカナで書いていたのですが、カタカナ読みでは全く通じませんでした。口を閉じた発音、広げた時の発音、無声音などがたくさんあって、その人がどのように話しているのかを、口元を見て確認しないと、発音が全く同じにならないのです。

で、そのとき色いろと助けてくれたのが、留学した時に大学で知り合った現在の今の家内です。家内は日本語学科にいたので、その関係で知り合ったのですが。日常会話はほとんどベトナム語で彼女と対話していて、生活でわからないことも大体彼女から教えてもらいました、それで彼女のおかげでベトナム語はだいぶ上達しました。ただ、その当時、会話したベトナム人からは、「なんか女みたいな話し方だ」と言われてました。

● やっぱり女性と男性で喋り口調が違うんですね。

はい。違うみたいで。そのあと気をつけなきゃと思って、会社で仕事してからも職場の人間と積極的に喋って上達させようと思って喋っていたら「ハノイ弁だな」と言われて。一緒に働いていた同僚がハノイ出身の人だったんです。それでちょっと言語って難しいなと思いましたね。でもそれでも楽しいことはいっぱいあったので、今まで 20 何年居られているのだと思います。

● 昨日、ベトナムの学校でハノイとホーチミンの発音の違いを、出身の方々がやってくさったんですけど本当に違いがわからなくて。

発音はそうですね。基本的にハノイの方が日本人には発音しやすいらしいです。例えば”ぎじずぞ”はハノイではよく使うけど、南部にはなくて。”やいゆえよ”という発音になっていて。南の方が、日本人にはちょっと難しい発音ですね。ただ最近は、ホーチミンでも会話を聞いているとハノイ弁と南部便がごっちゃになっていたりしますが。

● もう今はハノイとホーチミンの発音の違いとかも分かるようになりましたか？

それはわかります。因みにホーチミンでハノイなどの北の言語で喋るのは問題ないのですが、ハノイに行って南の言語喋るのは色いろと問題がありました。

私、ハノイにもいた事があるのですが、ハノイに住んでいた間、南部の人間に職場を含めて一人も出会いませんでした。ホーチミン市にはハノイなどの北部の人は結構いっぱい

す、移住や出稼ぎで北部から移動して来た人達が多くいるのですし、北部から来た人たちが住む居住区もありますしね。

●それはなにか行けない理由みたいなものがあるんですか？政治的な理由とか。

南の人にしてみたら住みづらいのかもしれませんが。北部が皆そういう人間とわけではないのですが、一部の北部の人にしてみると、先の戦争で勝ったので、南の土地は俺たちのものだし、北の土地も俺たちものだと。で、北の土地に南の人間がいると、「お前ら元々南の人間なのになんで北にいるんだ」という態度を取る人もいます。南部出身の家内が南の人間が「なんでハノイにいる？」みたいな事を何度か言われて、家内と一緒にハノイで暮らしていたのですが、もう家内はもうホーチミンに帰りたいと。早めに切り上げて帰ってきちゃいました。北部の人も人それぞれですから、皆が皆そういうわけではなく、ほとんどの人は普通に接してくれましたが、中には排他的な人もいたという話で。ハノイを含む北部は、ホーチミンがある南部と比べると土地も狭く、物価も高い。仕事も潤沢にあるというわけではないので南部へ移住してくる人は多いですよ。そういった中で、やっぱ外部から北の方に来た時に、ようこそっていう感じにはならない人もいるのかも知れませんね、私の個人的な感想もありますが。そういった部分で、北の方はなかなか南とか中部の人からすると住みづらいところもあるのかなとは思います。

●なるほど。昔から海外に興味はありましたか。

昔は、なかったです。興味はなくて、海外なんか行かないだろうなと思っていて。

大学の卒業旅行でアメリカへ2ヶ月間一人旅をしていましたが、その時も海外移住などは全く興味がありませんでした。

大学を卒業して就職後に、友人が横浜に住んでいたの、横浜中華街に週末になると一緒に食事に行ってたんです。そうすると、多分イスラエル人だと思うのですが、イスラエル人の旅行者が中華街の路上で店を開いて売っていました。小物を。その中にベトナムジッポーっていうベトナム戦争中に米軍の人たちが使っていたものがあって。

●聞いたことあります。

そう。そのベトナムジッポーを並べてね、売っていました。それを毎回見ていて、ある日ひとつ買ってみたんです。買って見た時に、ベトナムってどんなところなのかなって初めてベトナムを意識しだして、将来的に行ける機会があれば行ってみたいなと思いました。それがきっかけでベトナム戦争に関する本も何冊か読みました。

●その時は旅行感覚だったんですか？

そうですね。どんなところなのだろうって、行ってみたいって。その時ですかね、初めて海外に気持ちが向き始めたのが。ただ、それがまだ社会人になって 2、3 年目だったからまだ仕事辞めて海外に出るまで 5 年ぐらいあったわけですけど、その間も海外には全然出ずに、仕事を辞めてタイへ行くときに、そのジッポーと読んだ本の事のこと思い出して、タイに行くんだったら、ベトナムも近いから少しだけでも行ってみようかっていう本当に軽い気持ちだったんですね。ここに来たのは。

● 行動力がすごいですね。昔から行動力はあったんですか。

行動力はなかったのですが、道がその方向へ示された気がして、結構流されやすいというか。旅行して宿に泊まると、宿に情報誌があって、あそこはこうだって、ここはこうだったって情報が色いろと書かれています。タイではここそこはどうだったとか、ミャンマー、インドはどうだったとか。カンボジアで、ラオスはどうだったとか。その情報に結構、頼ってましたし流されてました。それでベトナムについて書いてある事が、ベトナムには行くな、とよく書かれていました。あの国は最低だとか、人が信用ならないとか、そういった内容が多かったです。その頃、ベトナムへ行く日本人旅行者はそれほど多くなかったのですが、ベトナムへ行った多くのバックパッカーが至る所でぼったくりに遭い、嫌な目に遭うことが多かったようです。タイの宿に置いてある手書きの情報誌には、そういったことがよく書かれていました。

結局ラオスへ行った際に陸路をバスでベトナムに抜けられるというのを聞いて。バスで抜けられるのであれば、ベトナム、その中心であるサイゴンという町へ行ってみようと思い、タイを出国してラオスへ入国し、首都のヴィエンチャンでベトナムビザを取ってから、ベトナムの中部へ向かいました。ベトナムで初めて訪れた街はホーチミンではなくて、中部地方のドンハという本当に小な街で、ラオスから 8 時間かけて国境を陸路で超え到着しました。ローカルバスでラオス・ベトナム国境から中部に向かう途中にバスで知り合った初老の女性から英語で話しかけられ、「よかったらうちでお茶飲んでかない？」と言うので、ベトナムの国境を抜けて何十キロが行ったところで降りて、その女性の家に行ったんですね、少し大きめの一軒家に、ご主人や子供や孫と住む、普通の家庭だったのですが、そのまま泊まらしてもらったんですよ。その時「ベトナムの人いい人かも」って思ったんですね。で、そこに二泊させてもらったのですが、二泊目の夜に警察来まして、そのまま

警察署へ連れていかれて、尋問を受けました。その時に警察に言われたのが、外国人はホテル以外に居住する時には自分の所在地を警察に届けなきゃいけないんだっていうようなことを言われました。ホーチミンなどの都市部にはそういったルールもう残っていないのですが、多分その当時地方ではその様なルールが残っていたのですね、届出を出してないのに無断宿泊したっていうので罰金を、その当時 100 ドルぐらい取られたんですね。ただ、その泊まっていた家の人がある罰金を出してくれました。

● 優しい！！すごいな、やっぱり聞いていると、行動力は人より絶対ある方なんじゃないかなって思いました。私だったら怪しくて行かないと思います。そこまでの会話は英語でしていたんですか？

英語ですね。簡単な英語で。その時、私もそんな英語が流暢ではなかったので簡単な英語で会話をしていました。

● 元々英語の勉強はされてたんですか。

してないんですよ。本当に分かる範囲での英語で。

● それでタイへ行こうっていうのはタイ語が喋れたからですか？

タイではその紹介された日本人のやっている人がやっている会社だったんで、もう日本語しか知らないから面接しに来て欲しい言われたので行きました。向こうで会ったバックパッカーの人たちに聞いてみるけど、それほどみんな語学に堪能なわけじゃないけれども、住みたければ、本人の決断次第で住めると言われて、結構それで勇気づけられた部分もありましたね。でもやっぱり英語はできないと色々な場面で困りますね。

● 英語や、その他の言語は、自分で勉強された期間はあるんですか。

いや、もうね、必要に迫られて、こっちで勉強しだしたのが正直なところですよ。

● じゃあ、ここで学校に通ったんですか。

そうです。ここで学校に通って、英語は他のベトナム人の知り合いに、日本語とバーターで教えてもらいました、そのおかげでなんとか今仕事で日本語、ベトナム語、英語で仕事が

できています。

私自身がちょっと怠け者の部分がありまして、必要に迫られたことでここまで成長できたっていう部分はありますよね。追い込まれないとね。夏休みの宿題は最終日まで残してしまうタイプで。

●わかります。同じタイプです。

気を付けなきゃいけないのは、ちゃんと意識しないと大人まで引きずります、怠け癖。未だに仕事に優先順位つけながら、あまり迫っていない仕事はギリギリまで残してしまったりかしてしまっ。あとであたふたするとか、今もやってしまいます。

●航空会社で働くことを決めたきっかけって何かありますか。

元々留学で大学行って資金がつかけてきて、仕事しなきゃなって思った時に、ベトナムの大学の留学について色いろと教えてくれた友人が、1枚のチラシを持ってきて、旅行代店で日本人を募集しているから「面接受けてみない？」って言われて。

実はその前にもいくつか電話で何社かあったけども、滞在がまだ1年未満で2か所ぐらいで断られて、もう少し勉強した方がいいのかなと思ったら、その友達がそこを紹介してくれました。そこの旅行代理店へ面談をしに行ったら、実は日系の航空会社が現在人材を探しているので、面談を受けてくれないかと言われました。最初は旅行代理店での仕事だと思っていたのですが、実際にはベトナム便の増便に伴い、その日系航空会社が日本人男性を探していたようです。その後、改めて面接を受けに行き、数日後には『都合のいい日から仕事を始めてください』ということになりました。なんか本当にあっさりって言ったらかおしいのですが、日本人がまだ少ない時期でしたので、とりあえず人手が欲しかったと採用されて、運が良かったのですね。ただ、その時言われたのが日本でどのような職歴を持っているかという部分はちゃんとこちらでも確認させてもらっているからっていう風には言われました。一応保険会社の営業を長らくやっていたので、その部分は考慮させてもらいましたってことは言われました。だから、もし経験なかったら、採用していたかどうかは分からなかったですという事も言われました。結局辞めたけれども、そのときは前にいた会社に感謝しました。ご存知かもしれないのですが、ベトナムで外国人が働くには大学卒業同等の学歴か5年以上のその職務についての専門知識を何かしら取得しているっていう条件があるので、それがないと労働許可がなかなか下りないのですね。専門学校や高校卒業までの人たちはベトナムで仕事を探すのが難しくて。もし職探しをするのであれば、日本か第三国で専門職を身につけて、その専門知識を持ってベトナムで働くという前提がないと難しいです。

●働いていて今日本人は増えてきましたか。

増えましたね。私が来た頃、ハノイとホーチミンを合わせても日本人は 3000 人もいないと言われていました。しかし、現在では 3 万人近くいると言われていました。かなり増えました。

●今の航空会社での仕事内容をお伺いしたいです。

一番分かり易いのはチェックインカウンターですが、そのチェックインカウンターのスタッフやシステムを含めた様々な管理作業とコントロール、チェックインを実際しているのは、ベトナム航空の子会社のあの青いアオザイを着ている女性たちです。ベトナム航空の子会社のハンドリング会社なのですが、彼女たちの業務中の管理とその他の様々な運営です。主な日々の仕事は、チェックインカウンターオープン前の事前準備から始まり、チェックインカウンターでお客様のチェックインのお手伝い、トラブル発生時のサポートと搭乗までの対応ですね。チェックインカウンターの業務や飛行機が到着した時の機内清掃の監督とか様々なのですが、便到着から出発までの一連の旅客サービスに関する作業についての指揮官的な位置づけです。あとは機内食の選定もあり、3ヶ月に1回機内食変がわるのですが、その機内食の選定を本社から来た人たちと一緒にどんな機内食にしましょうかっていうのを、半年に1回やります。あとはお客様の預けた荷物が未着となってしまったときや破損してしまったときの対応もやります。一次作業は全部委託先の会社へお願いしていますが、必要な時は直接対応します。特に日本人のお客様については私が担当する事が多いです。

あとはお客様が日本へ帰られてから、ホーチミン空港での対応についてのクレーム処理対応ですね。日本の担当部署から、「はい、こんなクレーム来ています、実際どういう対応したのですか？レポートしてください。」っていうね。

●クレームって結構来るんですか。

来ますね。コロナ中からコロナ後にかけての一時期はお客様ほとんどいなくてクレームも少なかったのですが、最近お客様も増えてきて、やはりサービス対応についてのクレームも増えています。こちらのサービスの品質や対応の仕方についてご指摘をいただく事はありますので、ご指摘についてはお詫びをすることが多々あります。

●この仕事、長く続けたいって思うくらい、やりがいて何か感じる部分あるんですか。

私にとっては、やりがいばかりです。お客様目線ではチェックインカウンターから搭乗口で終わりというように見えますが、その過程で様々な準備や管理がなされています。それらの準備や管理体制で何事もなくお客様を日本までお運びするという仕事は、私にとって本当にやりがいのある仕事です。空港という場所はトラブルが本当に多くて、チェックインカウンターでも、搭乗口もそうですが、その途中のイミグレーションや税関や保安検査場でも頻繁に起きますし、飛行機の到着時の機内でのトラブルもあります。出発時もそうですし、本当にいろんなトラブルがあつて。機材整備も含めて本当に何にもなく、100%スムーズに何の問題もなく飛行機を送り出せるっていうことは、実際はそれ程多くありません。だから、完璧に100%何事もなくスムーズに飛行機を出せた時は嬉しいですし、「今日は100パーセントパーフェクトで出すぞ」と考えているとモチベーションも上がりますし、やりがいをとても感じます。チェックインカウンターでの対応不手際のお叱りだったり、イミグレーションでのビザ切れトラブルがあつたり、体調不良で動けなくなってしまったお客様がいたり、様々なトラブルが日常的に起こるので、その様なトラブルが何もなくスムーズにいった日は20何年仕事していても未だに嬉しいです。毎便200人前後のお客様の対応をしていますが、やっぱりここで働いているとその場でお礼を言われることが多いですし、後でお手紙を頂くこともありますし、そういった部分にも非常にやりがいを感じますしモチベーションも上がります。また仕事上、世界中の空港とやり取りをするので、グローバルな仕事に興味のある人には非常にやりがいがあると思います。その分、苦勞も多いですが。

●昔から航空関係に興味があつたとかいうわけではなくて、ここに来てから流れで？

流れで、そうですね。

航空関係も以前の職種からは全く畑違いで、語学堪能でなければいけないだろうとか、色々とうそいった専門知識なければ仕事できないだろうなって感じがあつたので、いきなり旅行代理店の面接を受けに行つて、悪いけど空港行つて航空会社で働いてって言われた時は正直面食らつてしまいました。航空会社で働いていいのですかっていう感じでした。

●その時点ではベトナム語はどのくらい勉強していたんですか。

その時点では、ベトナム語は1年くらい勉強していました。会話も流暢とは程遠い状態でしたが、お客様は殆ど日本人だから、日本人の対応をしてくれと言われてました。荷物がとにかく重いので、とにかく体力ある人間が欲しいと言われてたことも覚えています。ですから、本当にベトナム語も同僚のベトナム人と日常会話で交わすぐらいで、仕事はもう

ほとんど日本語でした。ただ社内文書や各空港とのやり取りやマニュアルは全て英語なので英語の読み間違いや意味の取違が無いよう、かなり気を使いました。

● **今も日本語なんですか。**

その当時はまだマネージャーではなくて、一スタッフとして仕事をしていて、チェックインカウンターの責任者ではなく、日本人対応スタッフという形でいたので殆ど日本語のみでやっていましたが、今ではチェックインカウンターでの管理業務全般も行うので、その準備段階からの指示は殆どベトナム語ですし、ベトナム人のみのミーティングの際もベトナム語です。その他、上司を含んだ空港の様々なミーティングのときには英語になりますし社内文書は英語なので、その時々で言語を使い分ける事になります。

● **日常生活の中で日本人との関わりとかはあるんですか。**

結婚するまではありましたが結婚してからは無くなりました。実は私だけじゃなくて、知人友人でもベトナム人女性と結婚した人たちが多くのですが、大体結婚するとやはりなかなか遊ぶ時間とか会う時間っていうのがなくなるというのがありますね。住まいは空港から20分くらいなのですが、街の中心部とは逆方向に家を借りているので、日本人は全く住んでないんですね。結婚する前までは結構日本人の友人達とは食事へ行ったり遊びに行ったりしましたが、結婚した後はもうほとんど家族のみとの付き合いになりました。

● **日本人とベトナム人って何か違いとかを感じたことはありますか。内面的な部分でも。家族関係とかやっぱり日本とは違うのかなって。家族愛が強そうだなみたいなイメージが自分の中ではあって。私もベトナムのご近所さんが、毎日同じ人たちで朝ごはんを食べてる風景とかをよく見るので気になって。**

仲は良いですよ。直ぐ喧嘩をするのですが、翌日にはケロッとして、また仲良く接しています。正直、ベトナム人って、他人を信用しない部分があって、他人を信用しない分、家族をすごく信用しています。ですから、家族の繋がりをすごく大切にしていると思います。日本人は、父親とか母親にも、ある程度、礼儀をもって気も遣いますが、ベトナム人は使わないですね。人にもよるのでしょうけど。親とでも結構喧嘩しますので、怒鳴り合いの喧嘩とか。家族の結びつきが強い分、それだけなんでも言える関係になのかなと思います。

すごい喧嘩をする事もあるのでちょっとこっちが不安になる事もあります。あと、相手にこういうことを言ったら傷つくのではないかっていうのをあまり気にしない部分があって未だに「おまえに言われたくない」ムツとしてしまう事があります。

●ベトナム人は謝らないっていうのは聞いたことがあります。ベトナム語には謝る単語がないみたいなの。

うん。自分が悪いと思っても 100 パーセント自分が悪いと思わない限り謝らないという部分はある感じがします。10 パーセントの逃げ道がある場合には、その部分を盾にとって謝らないっていうのはあるかもしれません。でも、100 パーセント自分が悪いと思ったら、ベトナム人でもさすがに謝りますし、あくまでも人によりますが。

日本人とベトナム人の私を感じた一番の違いっていうのは、やっぱり思ったことを何でも言ってしまう。言わなくてもいいことまで言う。だから、その場その場で思いついたことを直ぐ言から、私の家内やベトナム人のお嫁さんをもらった人は本当に小言を言われる事が多いようです。日本人の女性と結婚すると、旦那さんにこれ言ったら傷つくとか、これ言ったらちょっと関係が悪くなってしまうのではないかという部分がある程度配慮しながら会話をすると思うのですが、ベトナム人は気にしない、配慮しない。とりあえず気になった事はなんでも言います。家に帰ってきて靴脱いだ途端に、「足汚くないか」「手洗って」「うがいして」「ドアは静かに閉めて」「いつも言ってるでしょう！」とか、食事のときは、「早くして！」から始まり、食べ始めると、「醤油が飛んだ！」とか、「ご飯こぼしている！」とか、「なんかあなた臭くない？ちゃんと身体洗っているの？」「本当にナマケモノ」とかよく言われましたね。他の家庭でも日本人の旦那さん方はこんなに言われているのかなと思いつつも家内の言葉を取りあえずは全て受け止めていました。自分が悪い部分もありましたし。それでも、なんだかんだ言っても家族への面倒見はすごく良いですね、ベトナム人の女性は。

●すごく親切な方が多いと思いました。

ただ、やっぱり結婚して自分の家族になったと認識すると、執着がより強くなるのか、どこに行くにも何をするにも、どこ行くんだ、何をしに行くんだと聞かれる事が非常に多くなりました。結婚前は全ての行動を確認するような言動は無かったんですが。

私の家の近くにはカフェが多く、時間が空くとそのカフェにすることが多いのですが、大抵休みの日の、この時間に外出ていくと大抵カフェに行くって決まってるのですが、必ず聞かれますね、どこ行くんだって、分かってる筈なのに。家の中でもちょっとトイレ行こうと思って立ち上がったたら、「どこ行くんだ」って、聞かれます。

● **ただトイレ行くだけなのに。笑**

はい。信用されていないだけかもしませんが、まあそういった部分は情が深いのかなって思うようにはしています。ベトナム人同士で結婚すると、離婚する人も多いらしいですけどね。幸いベトナム人女性と結婚した日本人の男性はほぼ尻に敷かれているらしいので、離婚したのは1組ぐらいかな、私の友人知人では。

● **逆にうまくいく秘訣があるんですか。**

はい。それはもう、口答えをしない。口答えをすると、向こうがその何倍にもして返してきて、いかんせん私もベトナム語でやり取りしていますから、もう勝てないですよ。何を言っても。で、私が日本語でやり返すと、私の人格を疑ってきます。妻に優しくないって言われるので、こっちはベトナム語で返すしかなくて。大抵それで分かってきたのは、もう妥協するしかない、口答えしてはいけないと。逆らわない、我慢できるところは限界まで、いや、限界を超えたとしても我慢する。でも、そのおかげで冷静になって考えてみれば、今、二年半離れていて思うのですが、思い返せば本当に今まで色いろと良くしてもらえたかなって言うのは正直な気持ちですね。だから、家内には本当に感謝しています、子供ども2人を連れて日本へ移り住み、1人で娘2人の面倒を見ているから、非常に感謝しています。

● **お子さんはベトナム語は喋れるんですか。**

はい。私の家内とはもう100パーセントベトナム語で喋っていますので。私とは日本語なのですが。ただベトナムではずっと日本人学校に通っていたので、言葉については日本語の方がネイティブですね。

● **先に日本に奥様とお子様を行かせたっていうのは何か理由があったんですか。**

日本人向けの高校が無いのです。小、中学校は日本人学校があるのですが、その上はインターナショナルに行かせるか、ベトナム人用の学校に行かせるしかないのですね。その選択は、実はベトナム人と結婚した人はどの家庭でもある悩みで、中学卒業したらどうしようかっていうのが1番最初の悩みなのです。で、例えばシンガポールに行けば、

早稲田校があり、その高校へ進学する生徒もいます。でもシンガポールはめちゃめちゃお金がかかりますし、勿論、偏差値も高いので学力も必要ですが、家計によほど余裕がないと目標にもできません。ですので、日本に帰らないと決めた人達は、大抵小学校からベトナム人学校に行かせて、日本人補習校というのが日本人学校の施設を使って週に1回あるので、それに行かせて日本語を身につけさせるという方も多いです。そういった方は、こちらで、ベトナム人向けの中学、高校、大学へ行かせる方もいらっしゃいます。或いはインターナショナル校ですね。ただ、インターナショナル校も、本当のイギリス、カナダ、オーストラリア等の国が認定しているインターナショナル校は学費が高いので、その他にもベトナム国内で運営されている私立のインターナショナルも結構あるので、そういう学校へ行かせる人も割と多いと聞いています。ただ、私の知人の日本人学校に子供を通わせていた人たちはみんな進学のために日本に家族を移住させていました。

こちらで、ベトナム人学校というか、将来的には子供を日本に帰さずに、ベトナム人の学校で進学させて生活させていくという人達には、「日本人学校で、小学校、中学校行かせて、大変な選択しましたね」と言われた事もありました。「これから日本に帰す準備にお金がかかって、その後日本の生活にもお金がかかって、日本の学費にもお金がかかるし、心配ではないですか?」とか言われました。ただ色々振り返って見て今考えると、私はこれで良かったと思っています。2,3ヶ月毎に日本へ帰りますが、その都度、子供たちの日本での生活を見て、ベトナムにいたときよりも、日本で生活を送り始めて自立心がついた気がします。ベトナムでは、小学校、中学校のときなかなか1人で外に出歩かせることができませんでした。ベトナム特有の交通事情もありますし、家内からはベトナムでは今でも誘拐事件が起こるから子供だけでは出歩かせられないと言われていましたし。日本ほど治安が良くないという状況で、学校以外はほとんど家に籠っていた状況でした。休みの日も家にいることが多かったですし、ベトナムでの生活では普通に学校がある日は朝、家を朝6時半に出て、帰ってくるのは夕方6時ですから、もう外に出歩くようなこともなかったですし、休日も、近くのデパートとかスーパーぐらいしか遊びに行かせることもなくて、子どもだけで外に行かせるってことはなかったのですが。日本に帰ってからはね、もう中学生と高校1年生ですから、スマホで地図を見ながら一人であちらこちら行っているみたいです。あとは、

学校はやはり日本人学校や日本の学校の方が面倒見も良いですね。一時期次女をベトナム人の公立小学校へ通わせていましたが、ベトナム人の学校では先生は絶対的存在でした。特に公立の学校に行かせると、授業についていけないのは、生徒の責任と言われます。教師の授業についていけない生徒が悪いと言われ、小学校や中学校では公立校でも授業についていけず成績が悪いと留年してしまうので、そのまま学校に行かなくなってしまう子供も多いですし、私の周りにいるベトナム人の知り合いには、小学校にもろくに行かず、そのまま成人しちゃった人とかいます。その点では日本は本当に面倒見というか、子供に対するケアが厚いと思います。あとはベトナムにもいじめがあります。次女をベトナム人の公立小学校へ通わせていた時に、物が無くなったり、持参した水筒の中身が登校直後に空になっていたり色々あって、嫁がもうそれで怒ってしまい、次女も日本人学校へ行かせたいってことで、次女の方も途中から日本人学校へ通うようになりました。長女は最初から日本人学校へ通わせていましたが、私としては、次女をベトナムの学校に通わせ、長女と次女がベトナム語と日本語でお互いの言葉を学び、二カ国語をネイティブ並みに身につけられればいいなという希望がありました。でも最終的には、家内の希望で次女も日本人学校へ通わせることになりましたね。ちょうどその時期に学校内での麻薬問題がニュースで取り上げられて、ベトナムの小学校でもヘロインが出回った事件が発生していると社会問題になったこともあり、そういったこともあって家内からの強い希望で日本人学校へ姉妹2人とも行かせることにはなりました。

日本への移住後、子供二人の心身的な面での心配はあったのですが、なんとか二人とも日本で生活ができていますので、取り敢えず今は日本に移住させて良かったと思っています。

● 最初から日本に移住するのを前提で日本人学校に通わせることにしたんですか？

最初は違いました。日本人学校行での授業料は月約 400 ドルで、送り迎えのバスの料金で 200 ドル程かかり、一学期ごとに、2 人合わせて 5000 ドルほど払っていました。それで正直日本に移住するほどの余裕もないので、中学を卒業したら、高校はそれほどお金のかからないインターナショナルを校探しといて欲しいと、家内には長女が小学生の頃から話をしていました。家内は「大丈夫、分かった分かった」といつも言っていたのですが。

● 「わかったわかった」という奥様の言い回しが怪しいですね。笑

もうあと 2 年しかないっていう時期に、家内は多分なし崩しに日本移住を考えているというのが分かってきました。長女も次女も日本人学校に通っていましたが、住んでいる場所は日本人がほとんどいない所で、子供も家族以外との接触がほとんどなく、友達も限られた

日本人の友達しかいなくて、そんな四六時中会えるわけでもありませんでしたし、ベトナム人の友達もいませんでした。ベトナムの日本人学校で、日本人として育ててしまったので、長女が中学校 1 年終わる頃には、「やはり日本に移住させるしかないかも」と私も覚悟はしていました。結局嫁の思い通りに。

●奥さんは元々日本が好きで、日本人学校に通われていたんですか？

家内は大学で。日本語学科を専攻していました。それで彼女が 21 歳の時、私がベトナムに来て 2 ヶ月ほど経って、大学の催しで知り合って、気が付いたらなんとなく付き合っているという状況になっていました。だから日本にはすごい興味があって、最初は私との会話はカタコトの日本語で喋っていたのですが、だんだんその比率が下がって、つき合い始めて 1 年を少し過ぎた頃にはほとんどベトナム語でしか会話をしなくなってしまいましたけれど。ただ、嫁は日本大好きですね。子供が出来たら日本人学校に通わせたいとは言っていました。

●奥さんは元々日本に行きたくて、でも行ったことない状態での移住だったんですか？

私と結婚するまでは日本へ行った事はありませんでしたが、結婚後はビザが取り易くなり年に一回は日本へ行っていました。子供が生まれてからも年に 1,2 回家族で日本へ行っていました。もしかしたら、この頃からもう将来的には移住って考えていたのかもしれないね。

日本へ行くと私は毎回彼女の買い物と観光の専属ドライバーとして良く働きました。

●それは、奥様も相当日本に来てほしいって思っただけじゃないですか？

ベトナム料理店がやりたいらしくて。実家は八王子なのですが、ベトナム料理店が街中に一軒しかないようで、また今住んでいる家の下が、広めの喫茶店が居抜きで使われずそのまま残っているので、その場所を使用して店を開きたいから日本へ来て準備を手伝うように言われています。

●もうベトナム料理店を開くには、万全の体制なんですね。笑

一年ほど前に衛生管理者の資格取ったから、店いつでも開けるから保健所呼んで欲しいと言われて。半年程前に、一応保健所から営業許可は取ったのですが、その後に資金の余裕が今ないから、取りあえず店の営業開始は少し保留にして欲しいと言ってあります。今は飲食店でパートしているみたいなので、取り敢えずは、そっち働く環境に慣れるために

も頑張るように言っています。今後店を始めるとなると、日本人の私がサポートしないと、なかなか難しい部分があるので。家内には、そこまで自分で出来たのはすごいね、でも今はちょっと待ってねって話をしています。

● そうですね。でも、5 年くらいはこちらにいる予定でしたよね。

そうですね。あと、約5年ほどです、まだまだ先です。

● 大丈夫ですか。奥様は、お店開設準備だいが進めてらっしゃいますが。笑

そうですね。なので、今は使用していない喫茶店の片隅でパンを焼いています。ベトナムのバゲットを。家内はパンを焼くのが得意で、日本に在住している彼女の友人たちがバゲットを焼いて送って欲しいと依頼があるようです。近場のみですが簡単なベトナムにゆかりのある食べ物を作って友人に配りながら開店準備を見据えた練習をしています。

● ほんとにすごいですね。

やっぱりたくましいですね。ベトナム人。本当にそう思いました。昔読んだ本で、「国際結婚するのであれば、男性は結婚した配偶者の国に住むのが理想である。」って書いてあったのですが、うちの家内は例外の様です。順応能力は高いみたいで寂しいとは移住してから一回も言ったことがありません。今、家内はベランダで家庭菜園をしているのですが、今年の夏はベランダでキュウリやトマトをたくさん収穫できたようで、生活を楽しんでいるようです。30cm ほどのスイカがベランダで収穫できたと写真を送って来た時には私も驚きました。

● 昔から本は読まれていたんですか。本の情報から行動に移すことが多かったようですが。

本は昔から読んでいましたね。小学校の頃から本が好きで、昔は SF などが多かったのですが、高校入ってからは推理小説やノンフィクションを多く読むようになって、先ほど話したようにベトナムジッポーを手にしてからは、近藤紘一や開高健の本を読むようになりました。ただ実際にベトナムへ向かうのはそのずっと後ですが。

日本にいた時からそのような本を読んでいましたが、ベトナムに来てからはベトナムに関係する本を色々探して読みました。やはりベトナム戦争に関する本なのですが、その当時の本をたくさん読みました。バンコクの紀伊国屋や日本帰国時に手に入れたりして。

また写真集も出てるのですが、ベトナム戦争当時のホーチミン市のあちこちを写した写真集です。その写真集を見ながら、今も残っている建物を見に行ったりしていました。米軍宿舎など、ベトナム人用アパートメントとして再使用されていてあちこちに残っていましたし、解放軍と南ベトナム軍が大規模戦闘をした大通りなど当時をしのぶ場所を良く探して見に行っていましたし、そういう場所を訪れるのが大好きでした。

● **本から学ぶことが影響してここにたどり着く形になることもあるんですね。**

そうですね。最近ちょっと本を読まないのですけれど。本を読まないと言葉が減ってきます。今はスマホを見ながらいろんな情報を得られるじゃないですか。だけど、スマホでいろいろな情報が頭に入っているはずなのですが、言葉に出てこないのですね。今思い返すと、昔はいろいろな本を読んでいる時って、何についても物の例えや自分の考えがすっと言葉で出てきました。今は自分の考えを的確に表現できない事や、これってどういう風に例えれば一番良いかなとか悩んでしまう時が結構あって。やっぱり頭の中の健康のためには、たくさん本を読む必要があるのかなって思いますね。

本から与えられた知識とか、本を読んで自分で感じたことを、やっぱり自分の口に出せる力がついてくるっていうのは、本を読むことが練習になっていると僕は思います。だからちょっと本を読まなきゃいけないのですけれど、なかなか。今はちょっと、お恥ずかしながらスマホに毒されていますね。日本に帰るたびに本を買ってくるのですが、読まずに本だけが溜まっちゃって。いつかまたゆっくり本が読める時間ができれば読みたいなと思ってはいるのですけど。

● **持って帰るのが大変ですね。またそれを持って日本にもし帰るってことになったら。**

……帰るのですかね？？私はちょっとそのつもりがなくて。一時帰国はすると思うのですが。なんとか家内のサポートしつつ、こっちで生活の基盤を置きたいなとは思っているのですが。家内には言えませんが。

● **日本よりベトナムの方が合ってる感覚がしますか？**

ベトナムに住んで 25 年になりますが、日本に行くとやはり楽しいですよ。短期間であれば。すごく。だけど、10日とか2週間ぐらい経つと、ちょっと落ち着かなくなってきました。そろそろちょっとベトナムの空気吸いたいな一っと思ってしまっ。

2週間日本に帰るじゃないですか。私は休みじゃないですか。日中ぶらぶらしているじゃないですか。中年の男が日中あちこちぶらぶらしているとちょっと気が引けるのですよね。

日本では。ベトナムでは、見てもわかるように、平日の日中に誰がどこでぶらぶらしているのが、我関せずなんですよね。非常に居心地のいい部分はありますし、ひとりでも寂しくない。日本にいたには昔から、焦燥感や孤独感を感じる事が日常生活の中でありました。仕事していて、色々なプレッシャーから来る焦燥感や将来が見通せない不安感など、気が付くとネガティブな考え事をしている自分がいました。ベトナムに来てからそのような精神的な不安定感が一切なくなりましたので多分環境が向いていたのだと思います。

ベトナムの人たちは、結構外国人ウェルカムな感じがあって。

毎日行くカフェ、毎日行くご飯屋さん、毎日行く市場の八百屋さん、豆腐屋さん、バイクの修理屋やガソリンスタンドのおじさんや、ちょっと顔見知りになった近所の人とか。みんな気さくに話しかけてくれて。特別に僕が社交的というわけではないのですが、ベトナム人の人たちの押しが結構強くて、来るのだったら来いよって人が結構多かった。そういった部分で自分にとっては心地よくて癒されているのは確かです。もちろん良い部分ばかりではなくて、ちょっと厄介な面も多々見てきましたけど、それを差し引いてもやっぱり精神的にも、ベトナムの環境は私には合っていました。

●日本人に伝えるとしたら、ベトナムの見どころとか魅力とかってというのは、そういった落ち着く感覚ですか？

ベトナムの見どころというか、やはりベトナム人の知り合いを作ってほしいですね。ただ、人の見極めは大切ですけどね。知合い方を間違えると、変にたかられちゃったり、面倒な問題に巻き込まれてしまったりとありますが、でも本当に普通にいい人として会っていると、ほんとに優しい人ばかりなので。

私は最初にベトナムに来て住んだ場所が大きな庭付きの一軒家だったのですが、その一軒家の各部屋を、いろいろな人に部屋貸しをしていました、学生もいれば、ベトナムの会社で共働きをしているベトナム人夫婦とか、語学留学でベトナムにきたアメリカ人とか、イギリス人の英語の先生もいました。いろいろな人がより集まって。そこで会った人たちみんな個性は強かったのですが、皆、気のいい人たちばかりだったので、とても楽しい生活環境をベトナムに来たばかりの時に手に入れる事ができました。

その大きな一軒家は部屋貸しをしていて、2階のベランダにテラスがあって、必ず誰かがいて、お茶していたり、学生が宿題をやっていたり、庭になっているマンという果物をもいで食べていたり。当時わたしは留学生でしたから、テラスにいると他の住人から、学校はどうだいとか、食事は口に合うかいとか尋ねてくれたり、いろいろとベトナムでの生活について相談に乗ってくれたり、本当にたわいもない話が多かったのですが、そういった時間が本当に

毎日だったので、寂しいと思うことがなかったですね。今思い出すと非常に懐かしいのですが、でももう二度とあの環境が手に入らないと思うと寂しい気持ちもあります。

多分サービスアパートメントと借りてしまったりとか、一軒家で1人きりで住んだりとかしたら、なかなか知り合いができなかったかもしれませんけど。その当時から、人と人とが非常に近い環境の中にいたので、ベトナム人の良いところを先に見ることができましたし、助けてくれる人がいました。ベトナム人の嫌なところを先に見てしまった人は、ベトナムのことを嫌いになってしまう人もいます。今まで私があった日本人でも、ベトナムのことが嫌いだという人が何人かいました。やはり、ベトナム人の良いところを見て、ベトナム人もベトナムという国も好きになって、ここに居着いてしまう人もいるし、定期的にベトナム来る人も本当に沢山います。ここで駐在員として仕事している人たちはいつか帰任になり帰国していきますが、帰任後も定期的にベトナムに来る人も多いです。

●初めましてで、仲良くなるのって難しいじゃないですか。そこになんか恐怖感っていうか、距離の近さに驚くことってなかったですか？

ベトナム人は良い意味で土足で踏み込んでくるので、こちらは、その土足で踏み込んでくる人間にどこまで許容していいのかっていうのは判断に困る部分もあるのですが、普通に接していれば、大抵ベトナム人の人ってある程度話が率直なので分かりやすいです。話が変な方向に向かう人達もいます。いつの間にかお金貸してとかの話になったり、バイク貸してくれないとか、話が変な方向へいってしまうこともあるので、私はちょっとそういった面で話の趣旨をちょっと確認しながら、一体何を望んで知り合いになりたがっているのかを判断して。そこまで土足で踏み込んで、一体君は何を言おうとしてるのかっていうのを探ります。いろいろ話をしながら雰囲気を見極めて、感じ取って、判断していました。ですから1、2回会って関係切っちゃった人たちもいっぱいいますよね。ホーチミン市一区のファングーラオ、デナム、ブイビエン等の繁華街とか安宿街とか、行きましたか？

●市場とかのことですか？

明け方までオープンしているバーとかがひしめいている場所なのですけど。

●あー！わかります!ちょっとまだ怖くていけないです。

昔、私あのエリアに住んでいて、全然あんな雰囲気じゃなかったんです。昔はただ単に安宿街で、タイでいうカオサンっていうようなところがファングーラオ、デナムというところだったのですが、そこに一時期住んでいたのですが。いろんなベトナム人がいて、家族か

ら養えないから出て行って言われて、その辺りに流れ着いてきた若い人たちとかがいて、結構知り合いになったりはしたのですけれども、やっぱり、すぐお金の話になったりとかね。何かしてくれと、頼み事とかが多くなってくると関係を保つのは難しくなるので、距離をおいたりとかして。ただ、そういう子たちって気がつくいつのまにかと日本人女性のガールフレンドができていたりとかして、本当にベトナム人はたくましいなと思いました。話の趣旨に沿ってない話ばかりしてしまってすみません。

● いえいえ。そんなことないです。いろんな話を伺いたくて。ベトナムに来てから、慣れるのに時間がかかったことはありますか？

慣れないことはいろいろとあるのですが、25年住んでいまだにホビロンという孵りかけのアヒルは食べられません、情けない事に。時々、会社の同僚に仕事帰りに誘われますし、嫁は今日本のベトナムスーパーで家の近くでも買えるらしいので、日本でも食べているらしいですけど、私は未だに食べられません。他にも、未だに和式の便器の家があるのですよ。古い集合住宅とか。あれは慣れないですね。あとは、ベトナム人との付き合いは長いのですが、いまだにズケズケと言う感じ、給料いくらだとか、体重何キロなのかとか、そういうことは彼ら彼女らとしては挨拶みたいなものなのですけど。もちろん外国人と付き合いのあるベトナム人はあまりそういうことを聞きませんが、普通のベトナム人は平気で聞いてきますので。その部分は未だにちょっと慣れないところもありますね。私も笑って受け流していますが。先ほども話しましたが、口答えしない、黙る、妥協するっていうものもありますけれど、ある程度聞かれても、不機嫌にならずに聞き流す。あベトナム人に何言われても、結構不愉快なこと言われても、ある程度聞き流すっていうのが、大事な部分かなと思いますね。やはり外国人はいつまでも外国人なので、外国人としての振る舞いは非常に大切だなと思います。ベトナム人同士は結構ズケズケ言い合いするけど、やっぱり外国人がベトナム人に言っただけでいけないうことありますので、その部分は一応棄えて生活をしています。やはりベトナム人同士で言い合う分には何もないけど、外国人から言われたらベトナム人が傷つくこともあるので。

● 過去に、言ってしまったこととかありますか。

私は、家内から付き合い始めた当初からきつく言われていたのですが、汚い言葉を絶対覚えてくるなと言われていました。だから汚い言葉をあんまり知らないのですよ。ベトナムには人を貶す汚い言葉がたくさんあるのですけど、それを使うと周りのベトナム人から教育レベルが低いと思われるし、品位を疑われると家内に良く言われていました。教育としつけを十分受けられなかったような人たちが使う言葉だと。

外国人とか、どこかで覚えた汚い言葉を、飲み屋で使っちゃうことがあるのですけど、言わ

れたベトナム人がすごい剣幕で怒っているのを見たことがあります。ですから冗談でも汚いと思われる言葉は口に出さない様に気を付けています。相手に遠慮せずに、土足で踏み込んでずけずけものを言いますが、やはりどんな相手でも尊重はしないとイケません。だから、仕事上でも人前では絶対怒らないですね。必ず誰にも見られていない場所で注意しています。ベトナム人同士では人前で怒ったり怒られたりしている人も時折見かけますが、私は皆の前では相手の自尊心を傷つけない様に気を使っています。静かに論じて、それで相手が悟ってくれるように、仕事上で教える際には非常に気をつけています。

自分の現状と今後の事としてですが。私は今ここで生活できていて、幸いにも非常にやりがいのある仕事をさせてもらっています。今は生活の目的が家族を養うこととベトナムに居住する事になっていますが、長らくこの土地で生活をしてきて、本当は私の年齢であれば、ベトナムで暮らすことを手段として、次の目的をしっかりと定めて動いているべきですが、正直なところ、今までは会社を離れたあとにしたい事が定まっていませんでした。

この仕事をあと数年で終えた後に自分は残りの人生で何をしたいのだろうと考える事が今まで幾度とあり、家族を日本へ送り出した今、自分なりの将来の夢を構築したいと考えています。

私がベトナムに辿り着く前に、そしてベトナムに住み始めた後も、このインドシナの国々で様々な人たちと知り合う事ができたのは今の私の精神的な支えです。本当に色々な人と知り合える機会がありましたが、そういった方たちと将来の夢や希望を話した思い出が、今になってよく思い出され、定年が近くなってきて、今後の将来像を考える機会になっています。

●元々のその夢っていうのは、どういう将来像を描いてらっしゃったんですか？

本が好きでしたし、物書きと言われる方々に出会う機会もあり、自分でも本を書いてみたいという思いはありました。人から頼まれ、少し執筆をしたことがあったのですが、その時には夢のまた夢だったのですけれども、その文章を書いて、少なからず印税を受け取れたときは、この仕事に将来関われば幸せだろうなという思いはありました。

●昔持っていた夢が、今また引き継がれたということでしょうか。

結婚後に子供も二人生まれ幸せでしたし、些細な夢については蓋をしても何の悲観もありませんでした。ただ月日が流れるのが本当に早く、この前まで幼稚園へ通わせてい

た子供が大きくなり、いつの間にか家内も子供も日本へ移り住んで、今では自分の時間が増えて休日は一日中家から出ない日も多くなりました。だからその昔の些細な夢を少しでも掘り起こしてみたい気持ちがあります。

●描いていらっしゃる夢は、自分はベトナムにいて、執筆をするっていう形でしょうか？

描いている夢は、家内には、細々と日本でベトナム料理を頑張ってもらい、私は、ベトナムで気長にものを書けたらいいなと思っています。お恥ずかしながら、それが今の夢ですね。

●小さい頃からの夢や、将来像とかはどんな感じでしたか。昔から本が好きだったとおっしゃっていましたが、だいぶ前から執筆をしてみたいなって思っていたんですか？

子供の頃は夢という夢はなかったです。ただ、高校生になって16歳になってすぐバイクの免許を取り、あちらこちら出かけるようになりました。最初は日帰りでしたが、そのうちキャンプ道具を詰み込んで、東北地方や北陸地方をあちこちうろうろしている時期がありました。その時には海外については考えてなかったのですが、「バイクにテントを積んで、本も持って、キャンプしながら日本中を見て回れたらいいな」という夢は、高校生の時に持っていました。本はあくまでも読むもので、自分で書くものとは全く思っていませんでした。

●やはり、行動力がすごいですね。なぜ一人でキャンプをやりようと思ったんですか。

最初は1人ではありませんでした。仲のいい友人がバイクを持っていて、私もバイクを手に入れて一緒に日帰りで遠出するようになっていたのですが、私自身は日帰りでは物足りなくなっていました。テントや寝袋、小型ガスコンロやコップフェルなどの炊事道具を集めるのが楽しくて、新しいアイテムを購入する度に泊りがけで一週間ほど出かけていました。バイクであちこち行くのは本当に好きで、午前中に買った雑誌に掲載されていた風景をどうしても見たくなくて、午後にはテント積んで家から出ていたこともありました。今思い返せば、バイクで旅している自分が本当に好きだったんですね。

●だいぶ長い期間で行かれていたんですね。想定してたの2日、3日とかだったので驚きました。実際は、途中で雨や暑さや寒さにやられてテント生活が嫌になることがありました。ただホテルや旅館ではその度に宿泊を断られました。やっぱりホテル、旅館に泊まりたくないので、体力的に限界近くてめっちゃめっちゃ疲れているときです。着ている服もバイクウエ

アですがドロドロに汚れて、それをきれいにする体力ももうなくて。それはもう、ホテル、旅館側からしたら満室ですって言いますよね。冷静に考えれば、わたしがホテルや旅館側でも断ります。私が去り際に、その後、別の家族連れが来て、部屋ありますかと聞いているんです。後ろの方で旅館に人が「部屋ありますよ」って言っているのを聞いてしまった場面が何回かあって、やはり、服装などの見た目は非常に重要だと思い知らされました。でも今思えばそれも楽しかった思い出です。バイク旅行の終盤はかなり疲れていて、なんか辛いぞ、もう帰った方が良くないか？と思う事もしばしばでしたが、旅行を終えて家に帰って少し経つと「あそこにも行ってみたいな」という気持ちがまた湧いてくる。フラフラするのが本当に好きだったんですね。ただ、自分には行動力があるとは考えてはいませんでした。親からもよく言われていました、落ち着きのない子供だと。

●その経験があったから、バックパッカーとしてタイからカンボジアを巡ってっていうことができるってというのは、あったんでしょうか。

いえ、全く別の感覚でした。日本ではバイクという相棒がいつも一緒に頼りにしていましたが、海外に出ると頼れるのはバックパッカーの人たちの情報だけが頼りでした。

当初自分自身はバックパッカーという自覚がなくて。確かにバックパッカーの人たちに憧れた部分もあったのですが、自分が名乗るにはおこがましくて、あとバックパッカーの人たちを嫌う人達も少なからずいて、高らかに「私はバックパッカーです！」と言える雰囲気ではありませんでした。私がインドシナを回っていて知り合ったのはやはり最初バックパッカーの人たちが多かったのですが、それぞれの国で暮らしている日本人の方とか、駐在されている方とか、その当時はバックパッカーを白い目で見ている人もいましたから。

●なぜ毛嫌いする方が多かったんでしょうか？

まず当時のお決まりですが大部分のバックパッカーの服装が汚かった。あと悪い遊びする時にグループでつるむからすぐ日本人だと分かる。現地の人たちから、「あーあれ日本人だ」、なんて指を指される事もあり、日本人の印象を落としていて、現地で暮らしている日本人が同じ日本人として見られるのが恥ずかしいという事を多くの現地在住の人が言っていました。日本に比べると悪い遊びが、東南アジアは簡単にできてしまうところなので。正直そういった方たちが非常に多かったのは事実ですが、バックパッカーは悪い遊びを目的にやって来るといような意見は偏見でした。でもやはり服装からして目立ってしまい、安宿街のカフェやレストランでそのような悪い情報交換をする人たちもいたので、私もバックパッカーやっていたとは言えなかったです。

タイへ入国した後に現地で知り合った人からそういう話を聞いていたので、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナムと回ってきましたが、その間、私バックパッカーなんですと自分から

言ったことはありませんでした。服装も毎日、なるべく T シャツとかではなくて襟付きのポロシャツを着て、身だしなみは綺麗にしていました。綺麗にしていると、現地の人たちからの印象も受け入れられ方も違いました。ベトナム人の人も、「なんかここに来る日本人は汚い格好しているのが多いな。その辺のストリートチルドレンと変わらんぞ。」って、ファングーラオ通りやデタム通りのベトナム人のよく言われました。ベトナム人の家にお呼ばれした時など、身ぎれいにしていれば、その家族からの扱いがあからさまに違うことも身をもって感じていましたし。

●バックパッカーとしてベトナムに来たことが転機となって、今は天職のお仕事をベトナムで見つけられたっていうのはすごいですね。

体力的な疲れとかで、会社にちょっと行くのきついなって思ったことはありますが、仕事自体が嫌だって思ったことは一回もありません。それだけ今の仕事が向いていたのだと思います。それに空港の職員皆が、本当によくサポートしてくれます。チェックインカウンタースタッフや、イミグレーションや税関の係官も空港保安係官も、機内清掃スタッフや機内食を準備してくれる会社の人。皆良くサポートしてくれます。自分は、この多くの空港職員の人たちに本当に助けられていますね。

●日本に帰りたと思ったことはありますか。ベトナムに来てから。

ベトナムに来て3年目に。その当時はベトナムへ留学に来る人達は大抵1年後には帰国する人が多かったです。長くて2年。日本人留学生は大抵1年から2年で帰国する人が多くて。そのあとも残る人はここで仕事を見つけたり、結婚したりとかして、長く住むことを決めた人たちがほとんどでした。なので、3年目には日本人の知り合いがかなり減りました。近くにいるのは大抵いつも今の家内でした。その時ちょっと生活環境に煮詰まってしまってますね。仕事は既にしていて不満は無かったですけれども、「このままベトナムで大丈夫だろうか」と思ったのが暮らし始めて3年を過ぎた頃でした。

その時に日本に帰ろうか、どうしようかと迷った時期があり、父親に相談したことがありますが、止められました。仕事があるのだから、そっちで仕事していろと。日本でも仕事は見つかるかもしれないが、帰国したい確たる理由もないのであれば、そっちで頑張れって言ってくれたのは父でした。それで覚悟決めました。その時期はやっぱり帰りたかったんですね、だから親父に背中を押してもらいたかったんです。帰って来いと。でも、その時に止めてくれたことには、本当に感謝しています。そのおかげで今の自分があるので、結果的には本当に良かったと思っています。

●初めて海外行くなってなった時も、ご両親は応援してくださったんですか？

最初は知人からタイでの仕事を紹介され日本を出て行ったのでタイで仕事を見つけたよ
うだと肯定的に送り出してくれました。

ただその仕事がダメになり、インドシナを回って数カ月して日本へ戻った時は、実家の居
心地が悪かったです。親からは、「まあ次の仕事を早く決めるんだな」と言われ日本で就
職活動を始めました。何社か面接を受けましたが、数カ月のインドシナの度の印象が強烈
に残っており、このまま日本で仕事を決めて日本で生活を送っていく自分が想像できな
かった。これでいいのかな。という気持ちがいつもありました。それで最終的に日本での就
職活動を早々に切り上げて、身の回りの整理を始めました。

日本を出る前は、仕事も決まらないままで、父親に言われましたよ。「現状は根無し草だ
な。」「このままでは根無し草のままだ。」と。ただ最終的には「向こうで本気で仕事を探
す気なのであれば、お前の人生なのだから自己責任でしっかりやるんだな」と父はいつて
くれました。結局私は、その後3年間一度も日本へは帰りませんでした。

●すごい決断力ですね。

今考えると、その時私にはここにしか行き場がなかったのかもしれませんが。正直、日本で
の仕事にすごいに行き詰まっていた。保険会社でお給料も良かったのですが、ただ、精
神的にも肉体的にも病んでしまった部分がありました。退職を決めた後も、退職後は余計に
病んでしまうかなと一抹の不安がありました。実際には最後の出勤日に自分の机を整理
して会社のオフィスをビルを出た時は爽快感で一杯でした、その時点では自分の将来には何
の保証も無い状態でしたが。

あの頃の生活環境を振り替えると、こちらへ来てからの環境は本当に恵まれていたと思
います。ここでも大変な事は多々ありましたが、現在の仕事はチームワークでないと仕事
が回りません。チーム全員で問題を解決していくという意識がとても強く、私にはと
ても合っています。今まで過ごしてきた人生で、様々な岐路や色々な選択肢があり
ましたが、今のところは多分、全問正解だったと思っています。全てがバラ色とい
うにはほど遠いですが、良い人生が送れていると思っています。とりあえず家内
には死んだら骨はサイゴン川か家内の実家近くのメコン川に流すよう半分冗談で
話しています。「これから、日本でお墓作っても、墓参りなんて大変だし、娘
2人だし、墓守って人間がいないのだったら、お前だって俺

の墓の維持なんて面倒だろう」って。

●ベトナムで生きていくという覚悟が決まったのはその 3 年目以降ということですよ。

3 年目以降ですね。3 年目以降、もうここに居ようと思いましたね。それから 2 年後に、うちの家内と結婚するのですけど。もうその時にはもう覚悟決めていました。

とりあえず、ベトナムに永住を決めるのであれば、やっぱり配偶者はその現地の女性と結婚するとは決めていましたし。ベトナムへ来てから 2 ヶ月後には今の家内と知り合って、結婚するまでの数年間、週末は殆ど一緒にいましたが、その間、家内ほど自分と価値観が近いと思った女性に出会う事はなかったので結婚を決めました。手料理も美味しかったし。その家内も日本に行ってしまうここにはいませんが。

●立場が逆転ですね。

うん、でも家内も日本で元気に暮らしているので、今の生活には満足しています。

●いえいえ、色々お話伺えてよかったです。ほんとに素敵なお話ありがとうございました。

大丈夫でしたか。こんな内容で本当に申し訳ないです。

●とても貴重な話を伺えて、私たちからしたら、もうこのベトナムっていう異国の地でこの長く生活されてるっていうのだけでもすごいことなので。

いや、でも、ベトナムに長く住んでいる人たちは、帰らないというより、帰れないというほうが当てはまっているかもしれません

●すごい魅力が溢れる街なんだなっていうのが伝わりました。

日本人女性でベトナム在住が長い人もいますが、やはり圧倒的に男性が多いとは思いますが。でも女性にも男性にも暮らしやすい国だと思いますよ。ただ、この歳になって思うのですけど、やっぱり老後を考えると、日本で暮らす方が安心できるという思いはあります。年齢を重ねていくと、日本の方が色々国が面倒みってくれる部分が非常に多いと思いますから。老後になっても日本に絶対勝てる場所は、ホーチミンであれば一年中暖かい事かな。

●なるほど。でも日本に戻るつもりは、老後のことを考えても今のところないですか？

自分の居場所を日本に戻すつもりは・嫁には言えないですけど……ないですね。

ただ、ベトナム人の実習生が日本で増えてきて、ベトナム語の需要が非常に増えているらしくて、日本人のベトナム語通訳の需要が増えていて。それを嫁がどっかで聞きつけてきて、あんた日本で仕事あるから、こっちに来て仕事しなさいよってことは、時々言われます。

●Sさんの選択肢としては、日本に帰るというのも一応あるにはあるということですか？

選択肢としてはあります。乗り気ではありませんが。本格的に帰国をしなければいけないとなると、気が重いです。

取り留めのない話でほんとにすいません。

●いや。素敵な報告書になります。ありがとうございました。

ありがとうございました。

山崎亜理佐さん 女性 50代前半 ピアノ講師 ベトナム在住 27年

インタビュー実施日 2024年9月10日 ホーチミン市内にて

聴取者:阿部礼佳・藤尾美玖

●まず、どうしてこのベトナムという国に来たのかをお伺いしたいです。

たまたまです。当時、日本語教師の勉強していたのと卒論を落としたのとで、卒論だけのために学校に行っていて、アルバイトもしていました。アルバイト先にすでに教えている日本語教師の方がいて、その方がベトナムで日本語教師を募集していて条件がすぐ行ける人でした。それで私行けますって言って、ちょうど勉強も卒論も終わる頃だったので全然こだわりもなかったです。

●もともとベトナムに行こうと思っていたわけじゃなくて、もう成り行きで。

はいそうです。昔はインターネットがなかったのです。ここはどうしても情報が遅くて電話しか手段がない時代でしたけど、まさかここまで長くいるとは思ってなかったですね。

●ありさんは、いつ頃ホーチミンに来たのですか？

1997年の9月です。

●帰りたいとか、帰ろうと思ったりはしなかったですか？

なかったです。でも、コロナのロックダウンが非常に厳しかった時に戦時中かって思うぐらいすごかったからちょっとその時は帰りたくなりました。それ以外は日本に帰って何をするっていう話で、やっぱりベトナムの方が住みやすいし居心地がいいです。ビザだけがちょっと厄介な時期がありましたけど、もう私の場合、夫が学校勤めでそこで家族のビザで取れるから心配はなくなりました。

●26歳で大学を卒業して、27歳のときにベトナムに来たのですよね。大学は何学部でしたか？

日本文学部です。日本語教師になるために大学に入ったので、本当は日本語学科に行きたかったんですけどね。

●日本語教師には幼少期からなりたいたって思っていましたか？

いいえ。私、高校卒業して就職もそこまでしたくないし、かといって札幌の大学もあまり魅力的に映らなくて、どうしたものかと高校生の際に思っていたら、ちょうど叔母がロンドンに駐在してまして。ロンドンで英語でも勉強すればと言ってもらい、高校卒業してそのままロンドンに行きました。

●大学に入る前にロンドンに行ったのですね。初めての海外はここですか。

そうです。初めての海外がロンドンです。

●どのくらいの期間ですか？

1年半です。当時はロンドンの高島屋でアルバイトをしていました。そこで知り合った日本人の方が大学を出た方が多く、その中に明治大学の先輩と後輩が偶然いて、それがいいなって感じました。自分は語学を習いに来ている、そうかこういう仕事があるのか、日本語を教えたいって思うようになりましたね。それで日本語学科を探したら、当時は関東だと明海大学しかなくて。でもやっぱり明治大学の先輩後輩が仲のいいのも見ていて、世代が違うのに、同じ大学だったっていうだけで歴史がある、それだけでも強くなることを感じました。やっぱり六大学っていうのがそうなのですかね。彼らが行っていた明治と法政とで、普通の屋間の大学はちょっとお金かかりすぎるから夜間がある法政にしました。夜勉強するって無駄がありませんよ。夜の5時から10時とかまでぎっしり。教職もとれて私は中高の国語をやっていましたね。

●子どもの時から元々外国に興味をもっていたのですか？

いい質問ですね。私は、自分でもどうしてかわからないんですけど、すごい外に出たくて、出ることに全然抵抗がありませんでした。何でだろうと思っていたら、私の祖父母が満州に渡っていたのです。母方の父親が熊本から満鉄の技術者として渡って、祖母の方は長野からやっぱり叔母を頼って満州に行っていて、そこでお見合い結婚したらしいです。なのでもし日本が戦争に負けずに、満州がどんどん違う土地を飲み込んで広げていくことがあったとして、実際に次はベトナムの予定だったようです。祖父は満鉄の技術者でしたが、ベトナムに侵攻して、ベトナムでまた別の仕事に携わる予定もあったようです。

●じゃあ運命ですね。

たぶんDNA的に外に行くのは全く抵抗がないのだと思います。

●ありさんは初めてベトナムに来たとき寂しいとか思わなかったですか？

全然思いませんでした。しかも来てから1ヶ月ぐらい月曜から土曜で毎日朝から夜まで働いていました。家にも連絡せずに。着いたよ、とも言ってなかったんです、電話代も高かったの。そしたら1ヵ月後に母から学校に電話かかってきて、あんた生きてんの！なによ連絡もしないで！と。それくらいがむしゃらでしたね。

●1人で来られましたか？

1人で来ましたが、もうすでに同僚の先に働いてる4、5人日本人の人がいて、その方たちに最初の生活を助けられました。心細いともなかったです。

●東京では1人暮らしをされていませんか？

それも母の同級生が住んでいて、そこにお世話になっていました。途中2年ぐらい1人暮らしをしましたが、またそのおばさんのとこに戻りました。

●繋がりが結構すごいですね。

そうですね。1人暮らししていた時も東京はその2年だけですね

●さきほど日本には居場所がないっておっしゃっていましたが、ホーチミンがすごい肌にあっていたのですかね。

それもありますね、人がいいんです。外国人の私におばちゃんが聞いてくる、なんだか大阪っぽい。知らない人でも平気で話しかけることもよくあります。

●何か日本でショッキングな出来事があったとかでは…

そういうことでもないです。この年になって日本帰って、じゃあ何ができるかって感じですね。

●日本では、ベトナム人の技能実習生はいるけどベトナム語を話せる日本人がいないから困っているらしいです。

通訳ですね。要は犯罪の人の通訳。でも、しんどくなりますよ。今、ベトナム人って日本語とてもよく喋るし、態度が日本人みたいな人は山ほどいて、恨まれてしまうらしいです。通訳は、同じベトナム人同士でそういう通訳になると、俺の気持ちはわかんないのか、と。なのでベトナム人は通訳やりたがらないみたいですよ。よっぽどドライに考えられる人じゃないと務まらないと聞きました。

●じゃあ、お仕事がない、日本に行ってもすることがないっていうのと、あとはこっちが住みやすくなっているのです。

生活しやすいのは日本ですよ（笑）

●日本人はみんな枠に当てはめようとしてくるところがありますよね、自分の枠を決めてそこから出ちゃいけないっていうのが無意識化にあるのです。

でも、学校の教育とかそういうものじゃないですか、小学校から。うちの子はフランス人学校に行っているのだけど、日本に戻ると大変そうにしていますよ。でももう大きくなっているのです、そこはうまく使いわけているようです。

●今お子さんはおいくつですか？

日本の学年で言うと、上が高校1年生の女の子で下は小6の男の子です。

●環境が合わない場合、小学校低学年から中学年くらいが1番苦しさを感じそうですね。

でも夏休みは毎年日本の学校入っていました。こっちが7月8月と2ヵ月間お休みで、北海道は冬休みが長い代わりに夏休みが短いので、1学期の終わり3週間と2学期の始め10日間ぐらい行けます。一時帰国の入学で札幌市は受け入れてくれるので、1年生から通っていますよ、コロナで2年間は行けませんでした。

●結婚されたのは何年ですか？

2007年です。

●旦那さんとの出会いはホーチミンで？

はい、こっちのスポーツジムで出逢いました。お互いジムに通っていて向こうから声をかけられました、いわゆるナンパですね。夫はカメルーン人です。私その時はバーをやっていました。日本語教師は5年やっていましたが、その後私のポジションがなくなって、学校はベトナム人だけでやってくってことになったので私は辞める形になりました。そしたら、私まだベトナムのこと何にも知らないなと思ったのです。本当にゆっくりできる国なので、多少のお金で楽しんで、のんびりしていたところテニスをやっていましたが、テニス仲間が飲む場所がないんだよと言いました。その当時、お姉ちゃんがいっぱいいるうるさいバーか、ホテルの高級バーかしかなく、静かに飲める場所はありませんでした。なんかやれよとみんなに言われ、私も飲むのが好きですし自分でやるのが一番安く飲める方法だって結論に至り決心しました。自宅で、その時一軒家を借りていたのですが、居間の部分をバーカウンターにして、会員制というかももう知っている人しか呼ばない形にして開きました。電話で今日開いてる？ああいいですよーという感じのいつもは開いていない店です。そしたら知り合った日本人の看護師さんの旦那さんがベトナム人で、レストランを開くけど3階が空いてるからありささんそのバーそのままそこでやれば？と言っていただけました。お店にするのは不安でしたが、もうすでにお客さんもいたので、やっぱり知っている人だけで、3階だから外から見えなくて宣伝もしないという形ならやっていけるかな、と思いました。本当に、女の人が1人でぽっと行ける場所はなかったのです。そして女の人が来れば、周りの友達も来ますからね、ピアノ一台置いてやっていましたよ。

●バーは何年くらいやっていましたか？

5年です、契約が5年だったので。でも、4年半ぐらいの時に今の夫と出会い、割とすぐ妊娠してしまったのですよね。結婚も子どももなんかもういいかなぐらいに思ってたのに、たまたま周りの友達のうち1人は日本に旦那さんと帰って、それからもう1人はJICAで就職が決まって。それぞれ自分の人生を歩み始めていて自分もこれからを考えてたところに今の夫が現れました。そして子どもができたので、結婚といえますか一緒に住んで、結婚子

どもが生まれて1年後ぐらいに入籍しました。

●ピアノの先生もされていますよね？

そうですね、メインはピアノ講師です。月曜日から土曜日までびっしり。35人くらいです。日本文学科出ましたけど、ピアノやっていますね。

●元々ピアノは習われていたのですか？

そうですね、もともとピアノバーでしたからね。

●ホーチミンに最初来たときはベトナム語を喋れましたか？それとも英語で？

全然、英語です。ですけど、当時間借りの大家さんも、技術センターという呼称の学校の先生たちもあまり英語が上手ではなくて、英語があまり通じない生活をしていました。1人ベトナム語と日本語ペラペラの先生がいて、その方がずっと通訳やってくれていたので仕事には支障ありませんでした。1年ぐらい経つとだんだん耳が慣れてきましたね。でもやっぱりちょっと習った方がいいかなと思い、プライベートの家庭教師の先生について、1年間は基本の勉強をしました。若かったから語学は入りますよね、語学はやはり若くないと。ネイティブは13歳までって言いますしね。でも、この時にこの言葉使いたいと言って覚えた言葉は忘れませんね。これなんて言うのと教えてもらうんです。あと、日本語を教えると、生徒が、これベトナム語ではこう言いますというのを3クールくらいやると自然に覚えられます。

●バーは5年続けられて、その後出産して。

出産して半年ほど店は人に任せて、そのままあげようと思っていましたが、その任せた人があまりできなかつたので。それで建物の契約が5年で終わり、その当時はもうバンバン値上がりする時になっていてすごい値上がってしまったのでもう店続けなくていいかなと思い閉めました。そのバーの時からピアノを教えていました。放課後の時間から、バーが開く18時くらいまでバーでピアノを教えていましたね。今ほど日本人も多くなかったですし生徒も少なかったです。

●それでもうピアノ教室1本に絞ったのですか？

絞ったというか、辞められなかったです。だって家でできるんですよ。旦那の稼ぎも現地採用でそんなに多くないので、私も働かないといけなかったですね。それでなにができるのといったらピアノが残りました。今は生徒のほとんどが日本人です。日本人学校もクラスがとて増えています。

●なんでそんなに日本人がベトナムに来ているのですかね。

もう企業がいっぱい入ってきているからです。昔は企業も少なくて建築と銀行となんだかしかなかったんですが、今はもう日本のちょっとした会社はこっちに工場作ってという感じになっています。昔は危ないとかで家族を連れてきませんでしたけど、今はもう全然連れてきても大丈夫になりましたね。昔ほどではないですけど、家賃や学費を会社側が負担してくれることもあり、とても良いと思います。

●ラジオもやっていますものね。

そうです。ちょうど今度の金曜日がラジオです。アジアレポーターとって、ホーチミン市の今をお届けしています。

●これは何年も続けていますか？

10年ぐらいですね。前にやっていた方が日本に帰るからと言って私に回ってきました。

●その当時ピアノバーは…

その時はもう辞めていました。

●でもそしたら10年やっていますね。この2014年くらいまでいろいろなお仕事をされていますね。

そんなに働きたくないですけどね、でも手に職があるとなんでもできる気がします。まずはそのファーストステップの大卒というのをしっかりとるために、そこは大事にしています。高卒の人とか専門学校の人もありますけど、なんかちょっとどこかで、卑屈になるじゃないですけど、行けばよかったとか後悔でもないんですけど、自分の1つの自信になっていますね。あとはちゃんと手に職も大事です。教職はとった方がいいですよ、あるとないとは全然違います。ここも土曜日に補習校でインターナショナルスクールに通ってる日本人の学校があり、教職を持ってなくても一応できるのですがでも持ってる方が信用度はやっぱり上がります。*ですます調

●そうですよね。お給料も違いますか？

お給料はプライベートのものなので一緒です。私も、日本人学校で急に先生が病気で帰らなくてはいけなくて1日だけやると頼まれたことがあります。それも教員免許持ってないと声かからないです。給料は本当に安かったですね。日本から派遣で来ている先生はすごいお給料で最高のところに住んで、2年か3年くらい駐在になるのですが、それで家買う頭金ぐらい貯められるくらいお給料いいです。こっちのお給料と、その時は危険手当みたいのがついているのと、日本のお給料も2倍でもらえる上に家賃も交通費もかからないので、すごいです。

●貯まる一方ですよ。

教員採用試験に受かると、海外勤務の希望を取るそうです。そして世界中の日本人学校で教えられます。

●今はアジアレポーターを続けていて、その他はピアノ講師と、ヨーグルトを配達しているのですね。

そうですね。ヨーグルトを作り、日本人家庭へ配達に行っています。LINE でグループを作り、アパートごとのオーダーがあるので、決まった曜日に伺っています。メニューもあります。ヨーグルトづくりはお店を持たないので家賃がかからず、空き時間で家できることなので、無駄がありません。

●今されているお仕事は、この3つでしょうか？

他には、家に本がいっぱいあるので図書館みたいなことをやっています。これは完全にボランティアでやっています。そして知り合いが保護猫活動をしているので、誰かに引き取られていくまで子猫を育てるということを依頼されたら行っています。

●どうしてこのように様々なお仕事をしているのかが気になります。

なんとなくですね。自分でこれをやろうって決めていたわけじゃなくて、成り行きで色々な仕事をするようになりました。

●成り行きですか？

そうですね、成り行きで。成り行きの人生だと思います。私はサイゴン川の浮き草のように生きるのがモットーです。

●とても素敵ですね。

それがうまく生活してゆける秘訣ではないでしょうか。好きなことならなおさら良いですね。無理やりやっても失敗することも多いかと思います。そして長く住んでいるので色々聞かれたり頼まれたりするのですが、有料にしたいところです（笑）。

●2020年のコロナの時に日本帰りたと思っても帰らなかったのですね。

ここを一旦出国すると、入国できなくなっていました。ベトナムが外国から人を入れないようにしていたからです。スーパーに行くのもチケットが配られて並ぶという方式で、お店の中には5人しか入れないようになっていました。お店の中に入ってもお米はない、卵もないという状況でした。ただお店からの配達があり、配達員は動けたので Grab^{*1}で配達してもらっていました。

^{*1}ベトナムの配達アプリ。日本でいうと UberEats のようなもの。

●家までデリバリーは来てくれたのですね。

デリバリーは来ましたが、壊滅的にものがなかったです。牛乳もしばらく飲めなくて。

●日本のロックダウンと規模がまったく違いますね。

そうですね。でもラッキーだったのが、私の家の下にスーパーが入っていることと、韓国系のスーパーも 1 店舗あったので、そこへは敷地内だから自由に行くことができ、買い物をすることができました。

●確かにこのあたりは韓国料理屋さんがたくさんありますね。

日本人がバンコクにすごい多いのは知っていますか。50 年か 60 年ほど前からバンコクに多くの日本人が移動するようになり、バンコクには大きな日本人社会があります。ホーチミン市では韓国がそれと同じようなことになっています。韓国人は 10 万人ほどいるのではないのでしょうか。ここは韓国かなと思ってしまうほど、ここ（自宅）の周りにも韓国人がたくさんいるような状況です。*ですます調

●昨日、イーマートというに大きなショッピングモールに行きましたが、そこにも韓国のお店がありました。

韓国人はとてもバイタリティがあるので、自分から積極的に商売をしますし、レストランとか専門店もつくりまます。韓国人が多いですが、日本人もホーチミンだけで 1 万人ほどいるのではないですかね。私がベトナムに来た時は 4000 人でしたが、最近は 8000 人ぐらいになったと聞きました。なので、当時は「どことこのだれだれさん」という感じで日本人みんな知っていました。

●2020 年にコロナで帰りたいと思ったけど帰れずじまいで、その後初めて日本に帰国したのはいつ頃ですか？

2022 年の夏ですかね。私と子どもで。夫はカメルーンに行きますので。カメルーンは 12 年前に 1 度行きました。

●ありさんの旦那さんはなぜカメルーンからベトナムに来たのですか？

今、夫はフランス人学校に勤めているのですが、その学校の校長先生が夫の知り合いで、「『体育の先生を現地採用でやってくれないか』と言われ、誘われてきた」と言っていました。嘘かもしれませんが（笑）。

●そうなのです。 “つて” は大切ですね。

そうですね、つては本当に大事です。頼れる人がいたら頼ったら良いですね。

●2022年の夏に帰国されてからは毎年日本に帰国していますか。

そうですね、毎年夏に帰ります。

●ベトナムの住民票などはどういった感じですか？

2年ごとの更新ですね。しかし前回はなぜか1年しか出なかったもので、この12月に再度行わないといけません。ですが学校が全部やってくれるので、戸籍謄本の翻訳を出せば問題ないです。

●10年くらい住めば住民票は降りるのですか？

それはないです。ベトナム人の配偶者がいれば10年のピザが降りますが、書類を揃えるのも大変で…色々大変みたいです。日本のシステムとはまた全然違いますね。

●日本にこの先帰って生活する予定などはまだありませんか？

人間は生まれたところが良いらしく、年を重ねたら母国に帰りたくなるそうです。私はまだその境地には至っていませんが。そして私の場合はまだ母が生きていて高齢なので、面倒を見に頻繁に帰らなきゃいけないかなという思いはあります。母はまだ1人で色々なことをできますし、妹も近所に住んでいるのでそれほど心配はいらませんが。

●話は変わりますが、ベトナムの教育事情はすごいですね。HUTECH大学の学生もとても勉強熱心です。

そうですね。英語教育などにも力を入れています。英語塾も週3で行っていたり、ホーチミン市のメニューには必ず英語も記載されていたりと、日常で英語をたくさん目にしますね。またホーチミン市のショップやレストランで働く店員さんは、ほとんど英語を話せますね。だいたいみんな英語ができます。英語だけでなく、もっと幼い子ですとスポーツの方面とかも習っていますね。

●今までの人生の中で自分を1番成長させてくれた出来事は何かありますか？

1番はつけられないですねえ。その都度その都度、どれも自分を成長させてくれています。ですが印象的だったのは出産、子育て…子育てですかね。自分が変わるぐらい。子育ては自分の生活も全て変わりますよね。

●お子さんはどちらで出産なさったのですか？

上の子は札幌で、下の子はここで出産しました。

●そうなのですね。上のお子さんの時は出産のために帰国された、と。それは安全のためですか？

いいえ、高齢出産でしたので。初産で高齢でしたからね。だから日本で産んだのですが、結局安産だったので 2 番目はここで大丈夫かな、と。ここだと、出産一時金が余るのでよ。設備が整っている高級な病院で産みましたが、余りましたね。日本は余らないと聞きます。その代わり、事前の検査は日本だと 3 割負担ぐらいで済みますが、ベトナムは全てお金がかかります。…出産、子育ては人生経験で大きかったです。

●出産、子育てで今まで自分のために生きてきた人生が変わるという感じですか。

そうですね。

●住む場所も子どもの将来を考えてですか？

子どもの将来を考えたら、日本の方が良かったような気がします。ここは学校が悪いという意味ではないですが、可能性は少ないように思います。日本の方が習い事の種類が多いですね。それから日本の部活はすごいですよ、毎日。部活でどんどん上達することができます。こちらはお金をかけて週に 2、3 回行く感じです。

●それは学校のクラブということですか。

ベトナムには学校のクラブはないです。または有料です。そして毎日はないですね、週に 2 回ほどです。

●お家では何か国語が話されているのですか。

私は子どもとは日本語だけです。夫と子どもはフランス語、私と夫は英語ですが、夫はあまり喋らないかな(笑)。子どもはね、友達とも英語で喋るようになりました。フランス語よりも英語の方が簡単だそうです。ベトナムにはフランス語と英語を話す人が多くいます、うちは日本語ですが。別の家庭はスペイン語とか…みんな 3 言語ぐらい話せます。

●この先何か描いているライフプランはありますか。子育てを終えて…

子育てを終えて…夫は子育てを終えたらカメルーンに帰るってずっと言っています。ベトナムあまり好きじゃないようです。黒人の人はね、ベトナムは住みづらいと思います。じろじろ見られることもあります。あまり街中でも見ないですよ。ホーチミン市の 1 区とか、2 区にはいるのですが、十数年前はもっと少なかったです。ベトナム人は心臓の声をすぐに口に出していってしまうのですよ。「クロ、クロ」とかジロ〜ってこう、怪物を見るみたいに。偏見ではなく、ナチュラルに思ったことを口に出しますね。だから居心地悪いのは知っていました。夫がカメルーンに帰るので、じゃあカメルーンで民宿でもやるのも面白いかなと思ったりもしましたが、やはりを年取ってくると、あまりそういう冒険はしなくてよいかんと思ってきますね。病気になったら、など不安が出てきますね。

●もし旦那さんに「カメルーンに帰る」と言われたら、ありさんはどうしますか？

今だったら行かないと思いますね。だってほんと何もないのですよ（笑）。

●では、ベトナムにいますか？

う～ん、ベトナムの方がもうこれだけ長く住んでいたら知り合いもコネクションもいっぱいありますからね。ここを捨てて何か新しいことをしたいっていうものがない限りはあまり考えていませんね。ただね、ここも便利になってきて昔ほど苦労しなくなったのが、私の中ではつまらなくなってきました。普通にいろいろなものが買えるようになってきて、昔みたいに小さなことで感じる大きな喜びが感じられなかったことが、つまらなく感じてきています。

●そうなのですね。現在、ありさんにとってのふるさととはどんな感じでしょうか。日本とベトナムの割合は。

それは日本ですね。小さい時から住んでいましたので。

●そうなのですね。自国愛って自然と芽生えますよね。この前、ベトナムの方に「日本が好き」と言ってもらいましたが、こんなに嬉しいのだと実感しました。

そうですね。ベトナム人は「日本人ナンバーワン」みたいなことを言いますよね。「そうでもないけどね」とか思いますけど（笑）。ベトナム人はそういう意味でフレンドリーですよ。変な遠慮をしません。そういうのが過ごしやすいです。

●ありさんはフットワークがとても軽くて、色々なお仕事を冒険していることがもうすごい憧れです。私も本当はもっとやりたいことをやってみたいですけど、学歴や良い職に就くことなどを気にしてしまって…日本にいと余計になのか、踏み出す1歩があまり…

そうですね。私もお店やりたいと考えていますが、まだ少し躊躇しています。家賃が高すぎることや、ライセンスがいることなど…。ベトナム人に頼んでやってもらわないといけないとか、色々なことでここ何年かずっとくすぶっています。

●どういうお店を考えているのですか？

そうですね、まずうちに本がたくさんあって、すごい図書館みたいな感じで、家でやってもみんな借りに来にくいと思うので、ちょっと読むスペースを置いて、猫を置いてみたいなイメージを考えています。

●すごいですね。どこからそのようなアイデアがわいてくるのですか。

アイデアというよりは、成り行きの方が大きいです。図書館に関しては、本がどんどん溜まってきてしまって…。この図書館をもともとやっていた方が予想外の帰任になってしま

い、私もそこを手伝っていたのですが、他に手伝っていた方々も帰任してしまって、私が「じゃあうちが引き継ぎます」と軽い気持ちで引き受けたら、今2倍ぐらい増えてしまって。帰任する人が置いていってくれるのですが、そういう風に自然に色々なことが回ってきて、「こういうことできるな」というアイデアが浮かびます。

●なるほど、「これやりたい」とやっていくのではなくて。

私の場合ね、集まってきて「じゃあやるか」というかたちになります。

●すごいです。ありさんの人生は成り行きで進んでいるのですね。

そうですね。サイゴン川に浮いている草みたいな感じです（笑）。

●私は計画性を重視する質なので成り行きで生きることがどれだけ大変か、計り知れないです。とてもすごいなと感じます。

そんなにすごいことでもないですよ。でも何より自分が何が1番好きかをまずわかっていることが大切ではないでしょうか。私は教えることが好きです。好きなことをやっけていもがっかりすることや、腹立つことはありますけど。

●人生で座右の銘はありますか。

「青は藍より出でて藍よりも青し」です。

●これは昔から掲げている言葉ですか？

はい。あともう1つあります。「out of sight, out of mind」、これ気分転換の良い言葉です。くよくよしている時にその言葉を思い出すと、くよくよなくなります。

●くよくよするときもありますか。

ありますよ、今はあんまりないですがやはり人間関係ですね。

●それはこちらに来てからですか。

うん、自分ではどうにもできない人間関係はあるでしょう。やっぱり自分に合わない人とかもいるわけです。あんまりないけれど嫌なことされるとか、どうも合わないとかやっぱり色々あります。

●人生で大切にしている考え方とかありますか。それこそ「楽観的に」とか。

考え方はフレキシブル。もうそれだけです。この国見たらそうじゃないですか。9時に来る！って言って来ないから（笑）。

●そうですね、結構ゆるい感じはありますよね(笑)。

そうそう。でもそうやって時間は遅れたけれど、「あ、遅れたからこんないいこともあったね」っていうことを見つけようとしています。全部プラスな思考に変えるように。レッスンのドタキャンとかあっても、でもそれも自分の時間ができた、何か別のことができるようにしています。

●今までこれだけお仕事色々されてきて、もうその時々で1番楽しかった感じですか。毎回更新されている感じですか。

はい。

●そうなのですね。1個前の仕事の方が楽しかったとか、バーの方が楽しかったとかありますか？

それはバーの経営の方が楽しかったです。毎晩飲んだくれて(笑)。だけど今より若くて独身だったからできたことで、今は子どもがいる人生、自分のこと第一ではなくなって、そういう人生に変わりましたが、以前とは比較できないものもあります。子どもから教わることも多いです。自分の命より大切なものがあると教わりました。

●転職を繰り返して職がなくなる不安などはありましたか。

今振り返ったらきちんと就職したことがないです。夜学時代は東京都議会議員の事務所で秘書と言う形で働いていました。それが唯一まともに朝行って、夕方終わって、「大学行けよ」とそこの議員さんが言ってくれて…今思うと有難いことです。でも、次の選挙でその議員さんが落ちてしまって、そこで事務所解散になってしまいました。夏は北海道に長く帰りたかったので、就職するとそれができなくなってしまうと思い、ずっとアルバイトをしていました。渋谷のセンター街の牛丼屋も1年ほどやりました。その後は割りのいい派遣の仕事、今はなきポケベルの開通センターなるところにおりました。

●定職に就かずに職を転々としていたのはそちらの方が合っているなって思ったからですか。それとも成り行きですか。

ガチガチに縛られることが嫌いだったから就職という道も選ばなかったのだと思います。どうも学校の延長上のような気がして。働いている方みんなで固まったりとか。職場入って新たな人間関係があって、先生じゃないけど上司がいて。偏見です(笑)。

●これまでの話を聞いて結構何にでもなれるという希望が出てきました。本当に縛られなくて良いのだっていう。

しかし何より人との縁が大事です。1人でなんでもできないと思います。やる人もいるだろうけど、でもやっぱり誰かの助けがあつての事だと思います。私のバーもそのテニスの仲

間がやれやれと言って始まって、その人たちがお客さんで来てくれたし、いろんな人に助けられました。毎晩来てくれる人も。絶対何か難癖つけてくる人もいるのも中にはいて、「素人が」とか。そういう風に引っ張られないで、楽しい方向、ポジティブな方向に自分を常に置いておくことです。

●人との縁はありさん自身が素敵で魅力的な方だから巡り合ったのですね。

そうでありたいですね、でも本当は宝くじとか当たらないかなと思ったりもします。

●そうなのですね。

これの取材を受けるにあたって自分の今までを振り返るきっかけになり、色々思い出したり考えたり、なかなか趣がありました。レポートになるのですね？

●はい。文字起こしをして。でも楽しみです、本当に。私の人生にないもの、足りないものを聞くことができました。ありがとうございました。

正田さん男性 63歳 ホーチミン日本人学校教師 ベトナム在住約7年
インタビュー実施日 2024年9月9日 ホーチミン市内のカフェにて

聴取者：相樂空 河内璃子

●本日はよろしくお願いします。

よろしくお願いします。

●今回のインタビューでは、海外に移住した方へのキャリアデザインや海外で生活するようになった経緯をメインに聞いていきたいと思っています。

はい、私がホーチミンに初めて来たのは2015年です。

●旅行でもないですか。

旅行でもベトナムに来たことはありません。

私は来月で63歳になります。

●はい、おめでとうございます。

ありがとうございます。でも、もうあまりめでたくないですね。できればマイナスでカウントしてもらった方がいいですね。

●最初は、ホーチミン来たのですか。

はい、その頃は2週間以上滞在する場合は、ビザが必要だったので、その都度、3ヶ月のビザを取って、で、3ヶ月ホーチミンにいて、ビザが切れる時に日本に帰って。ベトナムに入学して日本へ帰った場合は、30日間ベトナムに再入国できませんでした。それで1ヶ月ぐらい日本で生活して、またビザをとって、3ヶ月ホーチミンに滞在するという、行ったり来たりしていました。そのうち、面倒くさいし、飛行機代もかかるので、じゃあ、もうホーチミンに住んだ方がいいかなと思って、日本は全部引き払って、こっちに来たのが2017年ですね。

●最初ここに来ようと思ったきっかけは何ですか。

きっかけは。私の1年後輩がこちらで水道関係の会社をされていて。その後輩とは同じサッカー部だったので「先輩、1回こっちに来てください。面白い世界ですから」と誘われました。

●そうなんですね。

私、前職が自衛官なんです。自衛隊は共産主義国への渡航に制限があって、現役の時は来られなかったんですよ。それで、「定年になったら行くから」ということで、自衛隊の定年

が私の時は 54 歳の自分の誕生日だったので、定年した次の週に来ました。最初はホーチミンに来て。これはすごいなと思いました。私がホーチミンに来る前にベトナムのイメージと言ったら、みんな色が黒くて小柄で、女の人は傘をかぶっているイメージだったんです。今でこそ日本のテレビではベトナムを紹介する番組が多いじゃないですか、

●はい、そうですね。

その当時は全くそういうのがなかったのか、あるいは、私がたまたま見る機会がなかったのか、わからないですけど、もう情報がなくて。ベトナムにはそういう人がいるっていうのと、戦争ですね。つい最近までベトナム戦争をやっていたんだって、それぐらいしかなかったの、来てびっくりしました。人の多さと凄い活気を感じました。

●皆さん元気ですよ。

なんか日本はこう、どんよりしてるというか、こう、穏やかな海。こっちは、風も吹いてるし波は高いしみたいな感じですけど。そういうのがすごく好きになりましたね。それと、やはり食べ物ですね。とても口に合いました。

●最初からですか。

最初の頃は、私を誘ってくれた後輩の奥さんがベトナム人なんですけど、結構、色々なベトナム料理の店に連れて行ってくれたんですよ。「これ食べて。日本にないから」って。食べてみると「こんなに美味しいのか」と思いました。海外に長く住む上で食生活は重要だと思うんです。

●そうですね。

私の知り合いの日本人にもいるんですけど、こっちに来たけどベトナム料理が全く口に合わない人もいます。

●何でも美味しかったですか？

なんでも美味しかったですけど、食べられないものが 1 つだけありました。蛇です。ホーチミンから西のメコン方面に行くと、レストランで 生きた蛇の頭を落として、ぶつ切りにして、七輪の上で焼くんですよ。食べてみたけれど、硬いんですよ。これは無理だって思いました。

●食生活の方は。大丈夫だったんですね。

私は大丈夫です。

●自衛隊を定年で退職されて、その後に HUTECH の先生になったじゃないですか。その経緯って

何ですか。

HUTECH は非常勤でやっていて

●パートタイムがあるんですね。今もなんですか。

今は HUTECH に行っていないんですけど、今は別の大学に行って、今日も授業をしてきました。非常勤は「この授業をやってください」という打診があります。その期間、自分のスケジュールが空いていれば受けます。今やっているのは、週1回の授業を11回行い、約3ヶ月で終了するコースです。複数の授業を担当することもあります。

●特別講師としてということですね

教科書見ますか。私は会話の発音を主に教えています。

●日本語を教えているんですね。ちなみに何大学ですか？

フンブオン大学です。こういうのをを使ってやっているんです。

これは、3年生の授業で使っている教科書です。

●写真を撮っても大丈夫ですか？

大丈夫ですよ。これは、インターネットでダウンロードできるんです。本屋に売ってないんです。これダウンロードして、学生は使っています。

●ありがとうございます。

これは英語も書いてあるんですよ。こういう風に日本語と英語で書いてあるんです。

●ベトナム語は全く？

ベトナム語版もあるんですけど、学生は英語版を使っています。私はベトナム語版をダウンロードして使っています。

●はい。

私は今、この大学で、1年生、2年生、3年生、4年生の会話授業を担当しています。

●4クラスもやってるんですね。

9月から新学期始まったばかりで、先週の金曜日に4年生の授業を初めてやって、今日は2年生と3年生、明日は1年生の授業をやるんです。

●日本で英語を習う時と一緒にですね。形式は。

英語が得意じゃない学生もいるので、そういう学生はベトナム語版を読んだ方が理解が早

いので。

●去年の第3言語、やっていたんですけど、韓国語やっていて、こんな感じでした。

こういう説明なんかもベトナム語で書いてあった方が学生は理解しやすいし、学生は結構漢字の勉強をしているようですが、苦勞していますね。日本人は年数をかけて覚えているじゃないですか。私たちは小学校1年生から勉強していますが、こっちでは大学に入ってから漢字の勉強を始める学生がほとんどなので、言葉も覚えなきゃいけない、会話もやらなきゃいけない、漢字も覚えなきゃいけないので大変だと思います。

学生に「どうして日本語勉強しようと思ったの」って聞くと、「日本のアニメ」や「日本の文化」「着物やお茶やお花」とかをインターネットやYouTubeで見て綺麗だと思ったから、日本語を勉強して、日本の文化を全部理解できるようになりたいというのがきっかけだそうです。

私が今日授業した2年生と3年生は各学年13名ぐらいです。今担当している大学はこぢんまりとしたところで、高校と大学の一貫教育をしています。校舎の下の階が高校生、上の階が大学生の教室になっています。4年生のクラスは10人学生がいて、全員女子です。3年生は13名いて、男子が4人です。2年生は13人で男子が3名です。1年生は明日初めて会うんですけど、多分20人ぐらいいると思います。だんだん学年が上がるにつれ「もう日本語無理だ」って脱落していきますね。

●脱落していくことあるのですね。

だから4年生まで残っているっていうのは、かなり日本語や日本の文化が好きっていう学生ですね。特にアニメが好きとか。

●その大学の講師をアルバイトパートタイムで勤務するきっかけになったのは何ですか？

きっかけになったのはコロナ前に「日本語ディベート大会」をベトナム大学生主催でやっていて、その時の「ディベートの勉強会」の講師を依頼され、面白そうだから引き受けて、その時にもう一人の日本人講師と知り合い、その方がHUTECHで常勤講師をされていて、その人にHUTECHを紹介されました。

●引き抜かれたんですね。

そのHUTECHの日本人の先生が日本に帰るから「後釜に」ということで声をかけていただき、面接に行き、そして、非常勤講師になりました。

●その授業だけで。

だから逆に楽なんです。他のことはやらないので。自分が担当する科目の中間テストと期末テストを作る。あとは授業をやるだけなんです。

●その頃はもう住んで

そうですね。それが2018年ぐらいですから、ホーチミンに住んで2年目、3年目ぐらいです。

●日本人補習校の方が先にやっていたらしゃったんですか？

そうです。日本人補習校はホーチミンに来て、1年目ぐらいからですね。それも、知り合いから、日本人補習校っていうのがあるけど、日本人の先生が少ないからやってみないかって声をかけられて、面接に行って、それからもう7年経ちました。

●偶然の出会いが。最初は遊び感覚で、

そうです、最初は遊びに来たから、あーいいな、こういうところにずっといたいなと思ったら、いろいろな話が舞い込んできました。不思議です。

●不思議ですね。ビザで通っていた頃に、もう日本人補習校で働いていたんですね。

就労ビザじゃなくて観光ビザで働いて、今はもう就労ビザ取っていますけど、そういうのもできますので、もしよかったら来てください。楽しいですよ。あと、私はオンラインで日本語教えたり、家庭教師をやったり、いろいろできるので、生活自体は困らないし、飢えて死ぬようなことはないですね。

●安いでもんね。

物価は安いですし、結構「日本語を教える」というのは需要があるんです。

ベトナム人がやっている日本語を教える学校があるのですよ。そこで日本語を学んだベトナム人が日本に働きに行く、送り出し機関っていうのがあるんですけど、そこで先生をやっているベトナム人に今、日本語を教えています。

●先生の先生ってことですね。

先生もベトナム人で、その人は日本に3年ぐらい住んでいたのですが、教えるには色々難しい部分があるじゃないですか。会話は普通にできるんですけど、文法や敬語とかになると今の日本人でも難しいですね。

けど、結構楽しいですね。

●じゃあ、日本人がベトナム語を覚えるのもすごいメリットありますよね。

メリットはあります。けど、私は発音がダメです。

●あー、難しい。今も感じています。

私は時々授業中にベトナム語の小ネタ入れるんですが、発音が悪いので学生に理解してもらえないんですよ。それで、何回も言う「先生、発音が違うよ」と言われます。

●今でもですか。

発音が日本人の私の口ではできないんですよ。ベトナム人が日本語を流暢に話せないのと同じで、できないんですよ。

●今日ちょうどベトナム語の授業やったんだよね。

そうですか。

●めちゃくちゃ難しかった。なんか違うって言われても何が違うかわかんなくて

私、学生には日本語は「あ」って言えば「あ」しかないよ。ベトナム語は声調があるじゃないですか。だから日本語の方が絶対簡単だよ。ひらがなだけはって言ってます。

●確かにひらがなだけは。それ、ベトナム語もペラペラじゃなくてもその大学で教えることできたんですか。

大学の授業は日本語で教えています。

補習校も基本的に日本国籍の子供ですので、日本語で授業をやっています。今度、補習校に来られたらわかると思うのですが、各クラスにミックスの子が数人います。日本語がほとんど喋れない子もいますが、家庭によって、お父さんが日本人、お母さんがベトナム人という家庭がありますが、このケースの場合、日本語が話せない子が多いですね。お父さんは昼間働きに行って、一緒にいるお母さんがベトナム人だから、ベトナム語でしか話をしない。逆の場合は話せるんですよ。お母さんが日本人、お父さんベトナム人や外国人でも。日中はお母さんという時間が長いので日本語で話します。

●様々ですね。

私は今、補習校で小学3年生の担任なのですが、ベトナム人のアシスタントの先生が2人います。だから、私が言っていることを理解できない児童には、その先生がベトナム語で説明してくれます。

●ちゃんと伝わっているんですね。

日本語が苦手な児童にとって国語は難しいのは当然ですけど、算数の文章問題も文章を読んでも意味が理解できない児童がいるんですよ。計算能力は高いのですが日本語の読解力が低いので、ベトナム人の先生が問題をベトナム語で説明すると解けるんです。

●日本人補習校では、日本語の授業だけでなく、算数とか。

基本は国語と算数。

●何歳から何歳の子ですか？

小1から中3までで、教科書は日本と同じものが文科省から配布されます。

●日本と同じ扱いですね。

日本国籍の子供には無料で、日本国籍をまだ取ってない子供もいるんですよ。お母さんが日本人だったり、お父さん日本人だけど日本の国籍を持ってない子だったりには実費で教科書を買ってもらっています。

●これからもちょっとこういう生活続けようかなみたいな。

そうですね、命ある限り、やりたいですね。結構楽しいですし。

●子どもお好きなんですね。

そうですね、元気な子供を見ていると、こっちも元気になります。最近は休み時間にジャンプさせてとか要求されて汗だくになってます。

●今ご結婚はされてるんですか？

はい。嫁さん日本にいるんですよ。

●そうなんですね。

単身赴任です。

●寂しくないですか？

寂しくはないです。

●自衛隊の時に結婚された方？

そうです。私は、中学卒業して15歳で、広島県の江田島っていうところにある海上自衛隊の学校に入ったんです。そこは昔の海軍兵学校あって、それから定年する54歳まで海上自衛隊にいました。

●出身が広島ですか？

私は大阪なんです。中学卒業までは大阪で過ごし、それから広島为学校に入って、4年で卒業して、部隊配属になりました。あとはほとんど関東の基地で勤務しました。私は海上自衛隊なんですけど、ずっと飛行機に乗っていたんですよ。海上自衛隊の航空部隊は飛行機とヘリコプターと分かれているんですけど、私は飛行機に乗りたかったから、飛行機に乗ってずっと仕事をしてました。だから、ほんとは定年したくなかった。給料くれなくてもいいか

ら、飛行機に乗せてって思っていたんですけど、そればかりは、叶わないですね。

●日本に帰ったりしないんですか。

去年の4月に帰りました。コロナの時はずっと帰れなかったんで、3年帰りませんでした。

●ベトナムって共産主義の割にはなんか格差すごくないですか。

そうですね。共産主義っていうのは、題目だけで実際そんなのできるわけないっていうのはみんな気づいてますからね。

●そうですね。ホーチミンの方なんてめちゃくちゃ豊かなのに、この間なんかちょっと田舎の方行ったらもう全然違って。びっくりしました。もっと平等なのかなと思ってたら。

全然です。ちょっと田舎の方行くと靴履いてないですからね。ほとんどの人が裸足ですから。子供なんかも裸足で歩いていますからね。

●すごく面白いです。

さっき、御園生先生と。お2人来る前ちょっと話してたんですけども、キャリアデザインということで、将来どういう生活設計していくか、そういうのを話してもらったらいんですけどって言われたんですけど、私の場合はもうここで、とりあえず居れるだけいて、もう死んだら死んだでいいんです。私はもう知り合いのベトナム人にも私の家族にも言ってるんですけど、こっちで死んだらこっちで焼いて、遺骨は海にでも撒いてもらいたいです。お墓作ると、誰かがお墓の面倒見なきゃいけないですよ。私の親とかのお墓も日本にあるけど、うちの兄が面倒見てるわけです。そういうの考えたら死んだあとのことなんかわからないし、お墓に入れられて嬉しいのかなという感じです。下手するとお墓の中で父親に怒られるかもしれないですね。それだったら遺骨を海に撒いてもらった方が誰にも迷惑かからないし。

●今の生活の方が満足度高い？

そうですね。

●続けていきたいと？

さっき御園生先生とも、人生って若い頃に想像してた通りには絶対行かないですよっていう話をしました。私もベトナムに住んでる60歳の自分っていうのは考えたこともなかったですね。

●そうですね。

ベトナムのべの字もなかなかなかったんで。御園生先生も同じこと言われていて、私もそうで

すよってという話で盛り上がってたんですけど。人生そんなもんですよね。だから何が必要かっていうと、壁にぶち当たって不本意ながらどちらかに行った時に起こることに対応できる能力っていうのがあるだけで人生楽しいと思います。1つのことがもう嫌だと思ったら、人間ってそれに結構囚われるじゃないですか、嫌だって思って他の事までどんどん嫌になるじゃないですか。そこでうまく切り替えられるかどうかです。嫌なことの中にも、いいことっていうのはあるんですよ。そっちを探して、そっち拾い集めた方が楽しいし。そうすると、不思議といい話が来るんですよ。

●自然にですか。

そう。だから私なんかもうあっちこっちから声かけてもらって「日本語教えてくれないか？」「いいですよ」って。大学でも「授業やってくれないか？」「いいですよ」って言ううちに、どんどん輪が広がって行って、いろんな人の話を聞く機会に恵まれるんですよ。だから若い人にはそういう能力をつけておいた方がいいかなと。「こうするんだ」だけじゃなくて、自然体で、肩の力を抜いて、右から押されたら左に行けばいい。それでいいと思ってるんですよ。抵抗するのは疲れますし。こっち(流れるまま)に行った方がいい道があるかもしれない。だから、皆さんが私の歳になったら世の中はもっと変わっている。その未来のことを今から想像して、想像できるかな？っていうのがありますよね。

●できない。今ですらできないです。

ですよ。だったら、10年、20年先のことよりも、自然体で1年、2年先で自分のやりたいことをやった方が楽しいですよ。

●楽しいですか。

楽しいですよ。ほんと楽しいです。

●不安にならないんですか。

不安。どんなことやっても不安はあるじゃないですか。大金持ちでも、自分の財産がなくなったらどうしようって、そういう不安がありますよね。私なんか失うものは何もないですから不安もないですね。「今日の夜、何食べようかな」「明日の授業何しようかな」そんなことしか考えてませんから。

ちゃんと決められた道を努力重ねて進む人もいますよね。成功の道をまっしぐらに進む人も。それも1つの人生ですよ。私の場合は能力からしてもそういうのは無理なので、自然体で流されていけば、流れ着いた先に何かいいことは必ずありますからね。

●まさにそんな感じの人生ですね。

この歳になると、やりたいことはすぐやるようにしてます。

●思いついたらすぐに？

人間なんて、明日生きてる保証はないですから。

●いやいやいやそんなことないですよ。

いやそれはね、皆さん若いからそう思うけど、私も若い頃そんなこと全然考えなかったですけど、50 過ぎると、友達とか同年代の人が鬼籍に入るじゃないですか。そういうのを見たり聞いたりすると、これには順番ないよねって思うんです。昨日まで元気だった人が朝起きてこなかった、死んでたっていう話をいっぱい聞くようになります。だから私はもうやれることは来週やろうじゃなくて、やるんだったら今、今できないんだったら明日。ある意味せっかちなんです。

●大切ですよ。

皆さんはこの先、時代がどどんうねってくるかもしれないですけど、うまく波に乗るか、溺れるかですね。

●はい。乗りたいです。やり残したこととか後悔とかかってないですか？

やり残したことっていうので 1 つは「オーロラが見たい」というのが子供の時からありました。YouTube とかで見てますが、本当にあんなのあるのかなって。

●それはいつか叶えるんですか？

足腰がちゃんとして歩けるうちに見たいですよ。もう車椅子に乗せられていっても面白くないじゃないですか。東南アジアの人は興味深いですよ。内戦状態のミャンマーなどを除けば、急成長してるじゃないですか、日本はちょっと足踏みして停滞してますけど。ベトナムもそうですけど、インドネシアとか、そういう国ってこうすごい勢いで上昇してますから、そういうのを肌で感じるんですよ。私が 2015 年に来た時に、道路にこんなに車は走ってなかったんですよ。ほとんどがバイク。そのバイクも、日本だったらこんなバイク乗ってるやついないよってというような錆びだらけのポンコツですよ。そんなのが多かったんですが、今街中を走っているバイクも綺麗なバイクばかりで、たかだか、7、8 年前ですけど、成長のスピードっていうのはやっぱり日本の比じゃないなっていうのは感じます。

●全然違うんですね。

日本は逆に今、車減ってるんですかね。

●そうですね。車持つ人は少なくなってます。買うことが大変です。

運転免許をあまり取りに行かないっていうので、自動車学校が悲鳴上げてるって聞いたん

ですよ。

●東京とか特にそうかもしれないです。もうみんな電車なので。

交通機関が発達しているにわざわざ渋滞してる道路を運転しなくてもという感じですかね。それに車の維持費もかかるし、ガソリンも入れなきゃいけないし、そういうのを考えると、持つメリットってなんだろう？って思いますね。

●確かに。そうですね。

彼女とデートするときぐらいかな。

●確かに。

それ考えると、やっぱり日本は車が減って行って、ベトナムが逆にどんどん車が増えてます。ベトナムで車を買う場合って税金 100 パーセントですからね。

●100 パーセント？2 倍ですか？

日本でだと 100 万円で買える車が 200 万円ですからね。なんか貧富の差もこれから、どんどん開いていく。日本もそうなりつつありますよね。

●そうですね東京とかもすごいですね。

大変な時代ですよ。疲れたらベトナムに来るとエネルギーもらえると思います。

●活気が違いますね。

私は自殺したくなった人をベトナムに呼んであげたいと思います。日本人は先のことを考えすぎて余計な不安が膨らんで憂鬱になっているように思います。ベトナムは全然そんなことないように見えますね。繁華街とかにはあまり行かないですよ。飲み屋街に行くと、半身不随の人が、宝くじを売って歩いてるんです。左半身動かないんですよ。足と手は動かないけど、宝くじを 1 枚 1 万ドンで売ってるんです。ベトナムの宝くじは毎日抽選があります。交差点で止まると、昼間でも学校に行っていない子供が手を出して物乞いしてきますし、ホームレスが赤ちゃんを抱いてて、お金ちょうだいと手出してくるのもよく見かけますね。

●小さい子どもにお店にいたらこう(手を出して)やってやられました。実際に生活して、そういう方たちを見てこう思うこととか、どういうふうに感じますか。

私は、日本っていういい国に生まれて幸せだなと思っています。私はそういう物乞いを見かけたら、極力小銭があったら 1 万ドンとかあげてます。半分誰かに取られたとしても、半分は生活の足しになるから。あと、以前はベトナム人に誘われて、新月と満月の夜、弁当を

50 個ぐらい買ってバイクに積んで、夜になると、橋の上とか橋の下にホームレスがいっぱい集まるんですよ、そういうところに行って弁当を配ったりしてました。私たちがそういうのやってたら、大学生のグループも同じようなことやっていて、多分それは大学生にスポンサーがついていて、大学生を使ってそういう慈善活動をやっていると思うんですけど、そういうのよく目にします。なぜ、新月と満月の日かという、仏教的にそういう施しをするのにいい日だそうです。だから、新月、満月は特に多いようです。

●**なんか社会問題への意識も来てから変わっていったんですか？**

来てからですか？ベトナム政府は貧しい人に何かしてあげてるのかって言ったら、十分ではないのが現状だと思います。じゃあ日本はどうなのって考えた時に、ほんとに、困ってる人、貧しい人に日本政府はちゃんとできてるのかなっていうのをちょっと考えさせられますね。

●**ベトナムの人たちの生活は目に見えますね**

ベトナムは政府としてそういうことを、余裕がないからできないのかわからないんですけど、ある程度裕福で慈善活動に熱心な人たちがそういう貧しい人たちを政府に代わって助けてるっていうのが感じられますよね。

ベトナムの人は暖かいです。

●**知らなかったです。**

ベトナム人は基本的には優しい人が多いです。悪いやつもいますけど。それはどの国も同じですが。

●**そうですねえ。**

私も最初来た頃、もの珍しいから携帯でビデオ撮ったり写真撮ったりしてたら、通りに面した店のおばさんが「携帯取られるから気をつけろ」みたいな感じで教えてくれました。以前はバイクで近寄って来て携帯を手から奪って持っていかれるのが多かったんですよ。

●**携帯はお金になるってことですか？**

そんなに高値で売れないかもしれないけど、その人にとってはお小遣いです。 気をつけた方がいいですよ。

●**私すごい写真撮ってました。**

自撮り棒なんかで撮ってたらもぎ取られるみたいな。撮るときは周りによく注意しながら。

●**どんどん減ってってますか。そういうの。**

そうですね。最近は携帯を盗まれたっていう話はあまり聞かなくなりました。治安もよくなりつつあると思います。隙さえ見せなければ安全なところですよ。日本で生活していると、そんなことってないから。私もこっち住んでみて分かるようになったんですけど「この人は日本人だな」ってわかるようになりました。歩き方見たら、この人絶対日本人だになって。

●どんな歩き方ですか。

隙だらけです。バイクが走る側、道路側の肩にかばんを掛けていて、周囲の状況に気を配らず景色や話に夢中になっている人。バイクが近寄ってきてバッグをひったくられると、バッグを取られるだけじゃなくて怪我もしますから。

●逆に掛けるんですね。

逆側にしたりとか、手や脇で押さえたりとか、ひったくりは多いようです。

●日本ではないだけかもしれないですね。

外国行ったら当たり前ですよ。

●ヨーロッパとかも多いって言いますよね。

この前、YouTube で見たんですが、外国人がいろんな国で財布を落とした時の周りの人の反応の動画ですが、日本は 100 パーセント「落としましたよ」って財布を持って追いかけてきてくれるっていう動画を外国人が作っていました。

●日本が珍しいですね。

日本はこれからもそういうのがずっと続いてほしいですけど、どんどん外国人が増えると、悪いことする外国人も増えるし、日本人の心がすきんで「やられたから俺もやってやろう」とかいう考えになって欲しくないですね。

●やっぱそういう取られた時とかは切り替えが大事。

警察に不当な罰金取られても、税金だと思いうようにしています。

●ポジティブですね。

そう考えないとここにいるのが嫌になってくるので。多分あいつら今日そのお金でビール飲んでんだらうなって。「私のおごりだ」くらいに考えないと。ここでは日本人は外国人でアウェイだからしょうがないですね。

●海外の人、今ベトナム人の方とコミュニケーション取る上で、大切にしていることとかってあります

か。

大切にしていること？

●生徒の方でもいいですし、ベトナムの人でも。

ベトナム人は、日本人とは考え方が根本的に違うっていうのが、ようやく分かりました。同じものを見ても、この人たちは絶対に私と同じ反応は示さないんだなど。

●例えば？

例えば、水をこぼしました。ベトナム人は知らん顔してます。

●ハハハハ。

なんで拭かないの。って思う自分がダメなんです。この人たちの中では、そんなものは私がすることじゃないっていう判断をした結果の行動だと思ってます。そういう思考を受け入れられないのが日本人だと思います。日本人の悪い癖だと私は思ってるんですけど、相手も自分と同じ考え、同じ行動パターンを持っていると思いがちなんです。それはこっちに来てから痛感しています。この人たちが悪いんじゃないくて、文化、習慣が違うからだ理解するようにしています。

●違うことを理解して？

人種が違うってこういうことなんだっていうのは感じます。だから、今日お2人とも日本人なので、おそらく話した言葉に対する反応っていうのは大体同じような反応だと思うんですけど、この話をベトナム人にしても全然違った反応をすると思うんですよ。それだけは、これから外国に出て何かしようと思う日本の若者は考えていた方がいいと思います。こちらが真摯でオープンに接すれば、相手もそうしてくれると思いますよね、日本人同士だったら。心を開けば相手も心を開いてくれるだろうって。外国ではそういう事は稀だと思います。ベトナム人は持ち合わせている人がいるように思います。ベトナム人の中でも日本語や日本の文化を勉強してる人は持っていますね。私が大学へ行って感じてるのはそれです。学生の中には日本語だけでなく、日本の文化、習慣にも興味があり、そういうさらに深く入った部分を勉強しようと努力してる人がいる。全員がそうじゃないですけど、さらに深い日本人の精神構造のもっと奥深いところを知りたいと思って勉強してる学生もいます。そういう学生たちは結構似たような反応を示します。日本人より日本人っぽく、私としてもものすごく接しやすいですね。

●そうですね。

補習校のアシスタントでベトナム人先生がいますから、話してみてください。その先生たちは日本語がかなり理解できますから、十分コミュニケーションが取れると思います。

●その先生たちの考え方は日本っぽくなるのですか

日本っぽくなって人が多いですね。ちょっと探ってみてください。

●わかりました！

いろいろ話かけてみてどういう反応が返ってくるのかを見るのも面白いと思いますよ。

日本人にこういう話をしたら、普通こう返ってくるけどもしかしたら全然違う答えが返ってくるかも知れません。私は、日本の政府に「ベトナムの外交を見習え」って言いたいですね。ベトナムは、表面上は中国とも仲良くしつつ、かたやアメリカ、日本、オーストラリア、カナダとも仲良くして、ベトナムは外交上手だと思います。中国に行って中国からいいとこだけ取る、中国に支援してもらおう。そうすると今度はアメリカとかが「あんまりそっち行くなよ」ってアメリカからもお金を引き出す。そういうベトナムの駆け引きのうまさを感じます。日本人からすると、なんかずる賢いやつだなあっていう感じを受けますが、それが世界の外交だと。日本みたいにバカ正直にやってる外交が通じる国っていうのは世界でも少ししかないと思います。

●自分が与えても返ってくるとは限らないから、駆け引きしないとダメ？

そうですね。その駆け引きが日本は下手ですね。ベトナムは上手です。

●全然違うんですね。

全然違います。

●だからベトナムは成長してるんですか？

立場をはっきりしないっていう、そういうあやふやな面を持っていますよ。どっちにもいい顔するし、どっちに対しても拒絶をするし。

●ちゃんと自分の意思があるんですね。

日本はいつも正面から行くじゃないですか。相手に通じる場合はいいですけど、ほとんどの国には通じないと思います。

●たくさんありがとうございます。めちゃくちゃ楽しかったです。

なんか本来のインタビューのことからかけ離れたものになってしまって申し訳ありません。

●でも本来の部分も結構しっかり聞けたので。貴重なお話をありがとうございました。

こちらこそ、ありがとうございました。

キャリア体験学習（国際）2024年度
ICD ベトナム インターンシップ報告

仲本瑞希・遠藤直

1. 会社紹介

ICD ベトナムとは、ベトナムを拠点としたラボ型と案件受託型のオフショア開発を行う会社である。まず、オフショア（offshore）とは、「off 離れる」+「shore 岸」から「沖合」という意味の言葉であり、離れた地域である海外を指すものである。ICD ベトナムを含むIT 分野を中心とする企業は、人件費が安く、人材が豊富な新興国である中国・インド・ベトナムへ業務委託を行い、開発コストを抑える手法を用いるという。また、ベトナムにはエンジニア職を希望する優秀な学生が多くいるため、基礎技術の高さもベトナム進出の理由の一つである。ICD ベトナムを含むラボ型のオフショア開発は、日本のエンジニアが日本側のお客様のご依頼を現地ラボにいる日本のエンジニアへ委託し、そこからさらに現地ラボにいるベトナム人エンジニアへと作業を委託する。細かな作業チェックを施し、日本側のエンジニアに内容確認を行わせ、最終的に日本のご依頼者へと受け入れを行う。日本で『良し』とされた進捗管理や品質管理手法を現地エンジニアの働き方に盛り込むことで、顧客に「安心感」と「日本品質」を提供し、かつ、ベトナム人エンジニア特有の「技術力」や「開発スピード」を副次的に提供する日系開発企業である。

2. インターンシップの目的

私たちは、外国人に対してどのような伝え方や言い方をすれば良いのかを学ぶ。また、どのように外国人と仕事をしていくのかを実際の業務を通して学ぶため。

3. 業務内容

業務内容；ICD ベトナムのサービス事業の一つである Map Life

(<https://www.mplf.net/?hl=ja>) の修正指示書をベトナム人エンジニアに対して作成する。

Task1

●Map ページの一部の Tab が、言語切り替えを行っても日本語表記のままのため、この修正指示を作成する。

実際のバグの提示→情報が不十分な指示書（「変換漏れを起こしている日本語と、その各言語への翻訳結果」を記したサンプルリストであった。）

私たちは以下の指示書を作成した。

→この指示書を見せるだけではエンジニアには伝わらなかった。

後に、口頭で補足説明したことでエンジニアからの理解を得ることができた。

Map Life HP]

1. English page
 - a. フォトコンテスト
 - i. change [Photo Contest]
2. Chinese Simplified page
 - a. フォトコンテスト
 - i. change [摄影大赛]
3. Chinese Traditional page
 - a. フォトコンテスト
 - i. change [攝影大賽]
4. Korean page
 - a. フォトコンテスト
 - i. change [사진 콘테스트]
5. Spanish page
 - a. Spot
 - i. change [Lugar]
 - b. Post
 - i. change [Exponer]
 - c. Photo
 - i. change [Foto]
 - d. フォトコンテスト
 - i. change [Concurso de Fotografia]
6. Portuguese page
 - a. Spot
 - i. change [Ponto]
 - b. Post
 - i. change [Publicar]
 - c. Photo
 - i. change [Fotografia]
 - d. フォトコンテスト
 - i. change [Concurso de Fotografia]

Task2

●Map ページの地図モードを開いたときに初期読み込みが常総市を常に示す件を解決するための、指示書を作成する。

どんな問題が起きているのか→なぜ解決したいのか→URL とスクリーンショット (写真) を用いて現象を理解してもらう→2つの例を提示して具体性を高める→「なぜこの問題が起きている？」→それを踏まえて期待値 (理想の状態) も示す。

Task1 のフィードバックを受け、私たちは指示書の修正を何度も行い、最終的に以下の指示書を作成した。

この指示書によって、ベトナム人のエンジニアにこの修正内容を理解してもらうことができ、目標を達成することが出来た。

①

②

Task2 Solving current issues.

Expected value

ex1

1.Click on the map



2.Instantly display the correct map



ex2

1.Click on the map



2.Instantly display the correct map



Task1 Understand the current problem.

1. Issues:For a moment, a map of "Joso City" is displayed.No matter which map | you open, the map of "Joso City" is displayed.
2. Why I want to fix this problem:
Customers are more likely to want only the information they need.
3. Current Issues
I want you to try and find out.

Example1

1.Open this link.

<https://osagang1.milky.com/maps/archive/66cbf1ec807e15169446733/wall/spo/1st/2/1a>

2.Click on the map

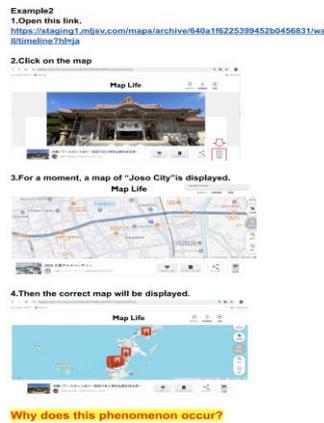


3.For a moment, a map of "Joso City" is displayed.



4.Then the correct map will be displayed.





③

4. 学んだこと

ベトナム人と日本人、それぞれの「普通」や「求める基準」があり、私たちが思う「普通」はベトナム人には通用しないということがよくわかった。上記にもあるように、Task2は、どの地域のイベントマップを開いても一瞬だけ常総市のマップに切り替わってしまうという不具合をエンジニアに伝え、修正してもらった業務であった。

最初にエンジニアに対し「地図を開いた時に違うマップが一瞬出てくるから直してほしい」と伝えた。この不具合を理解している私たちは、簡単な指示書でも理解してくれるだろうという依頼心があったがために、具体性のない指示書だけではベトナム人エンジニアに理解してもらうことが出来なかった。このことから、外国人と仕事をしていく上で最も必要なことは、どのような問題が生じていて、どのような作業をしてほしいのか、依頼者側の理想の状態がなにかまで、細かく状況を把握させることが重要になってくると分かった。

また、指示書を「5w1h (when/where/who/what/why/how)」をもとに作成することが最も重要だとわかり、「5w1h」は今後も仕事をしていく上で必要な学びになったと考える。

ここでは、海外の人に理解してもらうためにはどのようにすれば良いのか、伝え方はどう工夫すれば良いのかを学ぶことができた。エンジニアの人に渡す指示書は、簡潔にわかりやすくしなければならない。言語の壁というよりも、伝え方・言い方で仕事のスピードやクオリティの高さに関わっていくことが分かった。

5. まとめ

海外の人と仕事をし、共同して作業を行うとき、どんな問題が起こっているのか、結果どうなっているのかを伝える貴重な経験が出来た。

私たち日本人は、「共感」を軸とし過ぎるがために「自分が何してほしいのか」「どうあってほしいのか」「どうありたいのか」を伝える習慣があまりないとされている。

「わかった気になる」「伝わった気になる」という状態になり、客観的な観点からの相互理解を図ることが出来ない。これらのことから、「誰かにとっての普通は他の人にとっての普通にはならない」ことが分かった。

私たちは、相手の人種に関係なく物事を伝える力を磨いていくことが重要だと学んだ。

参加者コラム～ベトナムでの暮らし・それぞれのベトナム

伊藤 早慧

1、はじめに

私は、2024年9月4日から15日までの約2週間、ベトナムのホーチミンにおける海外研修に参加しました。今回の研修にあたり、私は、異国の地で一人で生活をする、異文化理解を深めるという2つの目標を掲げていました。

本報告書では、ホーチミンでの暮らしや現地の学生との交流、そこで得た学びを振り返り、今後はどう生かしていくかを記述します。

2、現地での生活

ホーチミンでの生活は、衝撃的なことばかりでした。今回は3つに絞りたいと思います。

まず、到着して一番初めに驚いたのが、交通量の多さです。とにかくバイクの量が多く、車よりも圧倒的に多かったです。また、日本ではクラクションを鳴らすことはあまり無いですが、ホーチミンは、クラクションが頻繁に鳴っていて、それで意思表示をしているように感じました。さらに、信号はあつて無いようなもので、赤信号にもかかわらず、バイクが走っていました。最初の方は渡ることが命懸けでした。ホーチミンの交通に関しては、バイクが最も優先されていると感じました。



次にトイレです。ホーチミンのトイレはトイレトペーパーあるところが少なく、ティッシュが必携です。近くに置いてあるゴミ箱に紙を捨てるということに最初は慣れなくて、つい水に流してしまいましたが、この点では日本のインフラの発達を感じました。

最後に食についてです。日本には馴染みのない香辛料が多く使われており、屋台や食堂の食べ物は匂いが刺激的なものが多かったです。最初は慣れなくてお腹を壊すこともありましたが、徐々に適応していき、さまざまな食べ物に挑戦することが出来ました。その中でも美味しかったのはソイガー、コムタム、フォーです。自分が住んでいる場所の近くにお気に入りの店を見つけて、ご飯に困ったらそこでいただきました。



3、現地学生との交流

今回の研修内容は、HUTECH 大学の学生とガイドブックには載っていない穴場の場所を調査するというものでした。その他にもメコン川でのフィールドワークや日本語クラブの活動など現地学生との交流の機会が多くありました。初めは言語の壁を感じる部分もありましたが、身振りや翻訳機を使って学生とのコミュニケーションを楽しみました。私のグループは寺院を巡ったのですが、現地の学生が寺院の説明を細かく丁寧にしてくれたのが印象的でした。私には自国の寺院の説明をこんなに詳しく出来ないと思い、外国人に説明できるくらい自国のことをもっと知ろうと思いました。言葉が通じなくても、積極的にコミュニケーションを取ろうとする現地の学生の姿勢に刺激を受けました。学校の活動以外にも現地の学生のおすすめのお店に行ったり、ゲームをしたりしてたくさんの思い出が出来ました。

4、終わりに

今回の研修を通して、知らない場所で一人で生き抜く力を身につけました。滞在中はさまざまな文化の違いに直面しましたが、それ



を乗り越える中で、自分のコミュニケーション能力や柔軟性が向上したことを実感しました。これらの経験は今後の学業や仕事において、必ず活かされると思います。

また、異文化に触れることで、自国の文化や価値観を改めて考えるきっかけになりました。さらに、文化の違いを否定的に捉えるのではなく、新しい視点を知るチャンスとして違いを楽しむことが重要だと感じました。



私は今回のベトナムでさまざまな体験をしました。その体験のほとんどは、旅行者としてはできなかったような体験が多かったように思います。今回のキャリア体験学習で得られた貴重な経験をいくつかまとめて記したいと思います。

① ベトナムの雨季の時期にいったため、出先でスコールに見舞われることは日常茶飯事でした。いつもは数分でカラッと晴れるスコールですが、鳴り止まない雷雨に見舞われ家に帰れなくなった夜がありました。

いくら待っても雨が止まないため調べてみると、5時間以上続く雨であることが判明しました。雨の中 Grab というアプリでタクシーを呼ぼうとしましたが全く捕まらず、道が渋滞している影響で、どの交通手段も使えなくなっていました。外で雨宿りをしていたものの、折り畳み傘では耐えられない雨量だったため、建物の陰で雨宿りをしていました。すると、警備員らしきベトナム人が近づいて来て、ベトナム語で捲し立てるように何かを言っています。ベトナム語のリスニング能力は皆無の私は、何も理解できずにただ聞いていることしかできませんでした。すると、こっちへ来いというようなジェスチャーと共に指差した方には、警備員の方が休憩する用のパラソルが置いてありました。私が濡れながら立っていることを心配して、自分がいたスペースに案内してくれたのです。さらに、彼が持っていたレインコートを私に着せてくれました。私が家に帰れないから雨宿りをしているということを、翻訳機を通して伝えると、彼は手当たり次第通ってくタクシーに私を乗せてくように説得し始めたのです。なんと2時間もタクシーを捕まえるために動いてくれました。そのおかげで、無事に家に帰ることができました。ベトナムの人の温かさに触れた日でした。

② ベトナムで生活する上で、移動手段は大切です。私はなるべく現地の人と共に生活するというのを体験するために、バスで行けるところはほとんどバスで行きました。バスを使えば片道40円ほどで中心地まで行くことができます。ベトナムのバスは日本のバスとは全く仕様が違います。バス停に乗りたいバスが来た時には、手を挙げてバスを止めます。手を挙げないと限り、バスは止まらず通り過ぎていきます。さらに、乗る時も降りる時も、基本完全には停車しません。乗るときは、扉が開いた状態でスピードを緩めて通り過ぎるので、すぐに飛び乗ります。降りる時は飛び降りるだけです。なかなかスリリングですが、あり得ないほど高い運転技術を体感することができます。

③ 12日間程度ベトナムに滞在しましたが、全食ベトナム料理を食べて過ごしました。二週間近く滞在したことで、ローカルな食堂にも一人で行くようになりました。知らない地で、現地の人とコミュニケーションをとりながらご飯を食べた時に、自分の中で成長を感じました。お店の人がおすすめしてくれたものを食べてみたり、ベトナムの南国フルーツを買ってみたり、数日の滞在では決してできなかった体験をする

ことができました。

一人行動が苦手だったのですが、滞在中積極的に動いたことで、自分の自信につながりました。一人暮らしをするということも、実家暮らしの私にとっては新鮮な体験でした。知らない地での生活は怖いと思っていましたが、意外となんとかなるということを実験することで、行動力も上がったように思います。長いようで短い12日間でした。



私はベトナムの衣食住についての報告書を作成しようと思う。

【衣】

ベトナム人のほとんどが、長袖の服と長ズボンを着用していた。また、半袖のTシャツを着ている人もいたが、その上から長袖の薄手の服を羽織っていて、半袖・短パンで外出をしている人は殆どいなかった。

私たちを始めとする、訪越人は、ベトナムが赤道付近の国であり、気温が高いことを考慮して、半袖・短パン・サンダルの人が多かった。しかし、現地人は、(先にも記載したが、)直射日光から皮膚を守るために、袖の長い衣服を着用していた。また、靴に関しては、この文章の流れだと、普通のスニーカーを履いていると予想する人が多いと思うが、スコール(赤道付近で降る土砂降りのような雨を指す。)に遭うため、サンダル、特にビーチサンダルを履いている人が多かった。もちろん、スニーカーや、着用している服装に合わせた靴(革靴など)を履いている人もいた。予想ではあるが、ベトナム人の主な交通手段がバイクで、バイクをサンダルで運転すると危険であることから、靴を履く人も一定数いるのだろうと感じた。

ベトナムは、一日に一回は必ずスコールがある。日本人だったら、どんなに強い雨でも傘を差したり、雨具を着たりして、目的地に向かったり、作業を行ったりするだろう。しかし、ベトナムでは、傘や雨具を身に付けてまで、何か行動することはなく、その為、傘や雨具を常備していることはなかった。その代わりに、多くの人が雨具をバイクに積んでいて、運転中でもスコールに対応できるようになっていた。



【食】

料理は、一人一品の提供ではなく、一品を大勢で分け合うスタイルだった。また、大

勢で分け合って食べるが大前提でつくられているため、もともとの量も多く作られていた。また、基本、外食文化で、朝食も屋台で売られている物を食べていた。中でも、バインミーと呼ばれる、温かいフランスパンにパクチーなどのベトナムの香草を始めとする様々な野菜や肉を挟んだベトナム風サンドウィッチを朝食に食べる人が多かった。訪越当初、私はパクチーを食べることに抵抗があったが、特有のにおいや、味に嫌悪を抱くことなく、美味しいと感じることができた。

また、屋台では、食べ物だけでなく、飲み物も販売されていた。日本のように既に液体になっている物を販売しているわけではなく、その場で果実を絞って、果汁100%のジュースを提供していた。私は、サトウキビジュースとヌッカムと呼ばれるオレンジジュースを飲んだ。サトウキビはとても甘く、飲み切るのに少し時間が掛かってしまった。また、ヌッカムはとても甘味で程よく酸味がしたため、とても飲みやすかった。

果物に関しては、すべてとても大きく甘味が強く、とても美味しかった。また、ベトナムを訪れて、私が一番驚いたことが、ココナッツジュースの効能だ。私はベトナムに着いてすぐに、冷房の効き過ぎで、少し喉を痛めてしまった。日本から持参した薬や、現地で購入した風邪薬を服用しても、あまり治りが良くなかった咽頭痛が、ココナッツジュースを飲んだら、たちまち改善したのである。ココナッツは万能薬と聞いたことはあるが、実際に自分の体で証明してしまったので、とても驚いた。



【住】

先に記載しているように、ベトナムは高温多雨である。そのため、洗濯物は部屋干しをしても、2~3時間ほど経ったら、すっかり乾いてしまう。私が暮らしたところは、洗濯機

と干す場所が室内で、よく陽の光が入る場所であったため、天候を活かした住居となっていた。

住まいで、日本と大きく異なった所は、浴室とトイレだった。一般的な日本の浴室は、シャワーを浴びる場所と湯船で作られている。しかし、ベトナムの浴室はシャワールームのみであった。また、一般的な日本のトイレは、ウォシュレット機能がついていたり、トイレットペーパーを流せたりなど、非常に高性能である。しかし、ベトナムのトイレはウォシュレットが無いのでシャワーで代用していたり、トイレットペーパーは流さず

にゴミ箱に捨てたりして、日本のトイレ事情とは衛生的にかけ離れているところもあった。

また、気温がとても高い国であるため、エアコンの設定温度の幅が広く、赤道付近の国ならではの部分も垣間見えた。



1.はじめに

2024年9月4日から9月15日までの12日間、ベトナムのホーチミン市に現地の生活者として滞在し、ベトナムの文化や日常を体験してきました。今回のキャリア体験学習(国際)に挑戦することは、私にとって大きな挑戦でした。今まで一度しか海外に行ったことがなかったため、ベトナムで約2週間自分1人で生活するという学習内容は、出発前には不安を感じることも多かったのです。しかし、ベトナム滞在中も帰国後もこのキャリア体験学習に挑戦し、参加することができて本当に良かったと感じています。約2週間のベトナムでの暮らしや、キャリア体験学習を通して得たことを記録します。

2.ベトナムでの暮らし

ベトナムでの暮らしは、基本的に全て1人行いました。移動・食事・洗濯・買い物など、費用や時間を計画して生活しました。ベトナムの街を1人で歩いていると、現地の方からの視線を感じました。私の生活していた地域では、1人で行動している外国人はほとんど見かけなかったですし、日本人の観光客の方も少ない地域でした。初めはそれが怖いと感じてしまい、夜に外出することも、1人で外食をすることも躊躇ってしまう日がありました。1人で食事ができる遠い場所まで外出しなくても、家の近くのスーパーやコンビニエンスストアで食事や日用品を買えば、外に出なくても生活することが可能です。挑戦することを諦めれば、日本と同じような生活をすることもできました。しかしこの体験学習では、そこで怖いからと諦めずに、一步踏み出すことにチャレンジする意義を経験することであると思っていたので、「1日に1度は1人で食事を取る」とこと、「1日1度外出する」ということをマイルールとしていました。

大学の活動がある朝は、活動集合場所までバスを乗り継いだり、Grab(車やバイクの配車アプリ)を手配したりして1人で向かいます。バスは時間通り来ないこともありますし、そもそもバス停の名前も読めないため、降りたいところで降りることができるかという不安もありました。しかし慣れると、同じバスに乗ればいいこともあり、必要以上に干渉されない自由なバスの環境も、バスは便利で快適でした。何よりもバスはとても安価で、区間距離に関係なく、日本円で約60円から乗ることができました。毎日乗っていると、怖いという感情が無くなっていく感覚を感じました。

徐々に生活に慣れてくると、約2週間毎日やりたいことが沢山あったため、1人で色々なところに行くことができました。30分以上歩いて暑いベトナムの街を散策したり、美味しいフォーを求めて知らない街へ足を運んだりすることなど、日々目新しいことしかなくて心が躍りました。1日があつという間で、明日の予定を考えることが楽しい習慣になっていました。日本で一緒に学んだキャリア体験学習のみんなと、ベトナムの活動で会って話すことでリフレッシュすることで、個人個人での生活ではありつつも、仲間が行動を起こ

している様子を鼓舞されながら、ベトナム滞在の期間を全力で楽しむことに注力していました。

3. キャリア体験学習を通して得たこと

ベトナム滞在の期間を経て、「なんでもできる」という感覚を得ました。今回のような挑戦してみた先の成功体験によって、チャレンジして成功することの自信と達成感を感じました。1人でバスに乗ってどこまでも行くことができたり、美味しい食べ物を見つけることもできたり、今でも連絡を取り合う友人ができたことから、「自分にできること」の可能性が広がりました。今まで挑戦する前から、私にはできないと諦めてしまったり、様々な理由をつけて挑戦しなかったりしたことにも、挑戦したいと思うようになりました。今後挑戦してみたいことも見つかりました。この経験が、自分に自信を持たせてくれましたし、やってみたいと思ってもいいのだと思えるようになりました。また、後悔しないように、やりたいことは全部やってみようという考え方が身につきました。

4. 最後に

このキャリア体験学習に参加して、「挑戦してみる・体験してみる」ということは、必ず自分を成長させてくれる経験になることを体感することができました。言葉もなにもわからない土地に行ったとしても、現在のインターネットや翻訳アプリの発展によって、スマートフォンを活用すれば、1人でご飯を食べることも行きたいところに行くことも可能です。新しい土地に行って生活者として滞在することは、旅行とは異なり自分で考え自分で行動するという精神力が必要だと感じました。

生活者として、その土地の文化を感じるのがすごく楽しいと知ることができました。今後、もう一度ベトナムへ行きたいと強く思っています。



今回の報告書では、ベトナムでの食文化について述べたい。正直に言うと、ベトナムで暮らす上で最も苦労したのは食文化の違いでした。私は、ベトナム料理が決して得意ではありませんがそれでも自分が美味しいと思えるベトナムの食べ物を探しました。なぜなら、国際交流や異文化への理解の第一歩は、その国や地域の食文化を知り、実際に体験することだと考えているからです。実際にベトナムで現地の学生たちと壁の無い飲食店で食事をしたり、屋台で飲み物を購入したりすることで、生のベトナムの生活を実感することができました。現地に足を運び、現地の人と同じ食生活を共有することで直接ベトナムの文化を理解できました。

まず、二週間の滞在中に、最も多く食べたのは、温かい麺類に肉類や海藻系、野菜を加えた料理でした。しかし、これだけでは味付けが足りないため、パクチーやチリソースを加えて調整することが多かったです。これらの味付けは私にとっては刺激が強く、最初はあまり手軽に食べることができませんでした。日本の料理と比べると、ベトナム料理は一つ一つの料理に対して手間や手順が少ないと感じました。

慣れない食生活の中で、私が頻繁に食べていたのはスムージーとバインミーである。ベトナムは果物の生産が盛んで、市場では果物がキロ単位で数百円で購入できます。現地の人々はその果物をスムージーにして販売しており、日本では500円以上するスムージーが、ベトナムでは300円弱で購入できるのです。朝とれた新鮮な果物を使ったスムージーは非常においしい。特に「アボカドスムージー」は日本ではあまり見かけないが、甘くて非常に飲みやすかったです。ベトナムに行った際にはぜひ飲んでみてほしいです。

また、バインミーは、日本人でも食べやすいと言われているサンドイッチです。バインミーは、温かいフランスパンにパクチーなどの香草をはじめとする様々な野菜や肉を挟んだ定番の朝ごはん、200円ほどで購入できます。安く大きくておいしい本場のバインミーをぜひ味わってみてください。

二週間のベトナムでの生活を通して、自分がベトナムの文化をすべて理解したとは言えませんが、食生活をきっかけに、少しずつベトナムを知ることができたように感じています。また、それと同時に異文化を理解する方法を見つけることができました。



相樂 空

ホーチミンでの生活は、とても刺激的で興味をそそられるものだった。実際に見て、経験したベトナムは研修前に抱いていたイメージや予想とは異なっていて、国際体験はやってみないと分からないことが山ほどあるのだと身をもって実感した。ベトナムでの暮らしの中で特に印象に残ったのは生活様式の違いである。

ホーチミンに到着して、まず驚きを受けたのは交通事情だった。道路には信じられないほどバイクが走っていて、毎日渋滞するのは当たり前だった。横断歩道を渡るのにも一苦勞で通行車両が少ないタイミングを見計らい、バイクに避けてもらいながら渡るしかない。また、交通量の多さだけではなく運転の自由奔放さにも衝撃を受けた。子供を乗せた2人乗りや3人乗りのバイクはまだしも、犬を膝にのせて運転する人や平気で歩道を走る人もいた。最初は理解できない交通状況だと思っていたが、この国ではこれが普通だと気づいてから不思議と何も思わなくなった。



次に気になったのは食文化だ。街を歩くと至る所にフォーやバインミーの看板が目に入る。中心部では飲食店や屋台が道を埋め尽くしていて、個人経営、チェーン店を問わず外食をする際の選択肢は非常に多い。現地に住んでいる日本人の方にヒアリング調査をした際には、ベトナム人は料理をする回数が少なく、朝・昼・夜いずれも外食することが基本だと伺った。飲食店の多くはドアがなく歩道とつながっていて、店の中と外の区別が曖昧である。また、家族や仕事仲間、友人などと共に和気あいあいと食事をしている人が多かった。私たちが HUTECH の学生と共同作業をしていたときもたびたび食事に誘われたので、ベトナムでは一緒にご飯を食べに行くことが交友関係を深めるきっかけになっていて、その点では日本と共通しているように感じた。

日本とベトナムとでは生活時間や時間の使い方が大きく違っていた。ベトナム人が活動する時間は早く、大学の1限が午前7時から始まると聞いたときは驚いた。これは暑い気温が要因になっていて、暑い時間での活動を避けるように生活リズムが出来ている。お昼には仮眠を取ることが基本であり、銀行などのサービス業も営業していない。雨季には、一日に数回スコールが降ることもベトナムの特徴であり、雨が降る時間も生活の一部として組み込まれている。スコールが降り始めると、街を歩く

日本とベトナムとでは生活時間や時間の使い方が大きく違っていた。ベトナム人が活動する時間は早く、大学の1限が午前7時から始まると聞いたときは驚いた。これは暑い気温が要因になっていて、暑い時間での活動を避けるように生活リズムが出来ている。お昼には仮眠を取ることが基本であり、銀行などのサービス業も営業していない。雨季には、一日に数回スコールが降ることもベトナムの特徴であり、雨が降る時間も生活の一部として組み込まれている。スコールが降り始めると、街を歩く



人々は雨宿りをしたりカフェに入ったりして時間をつぶす。日本で雨が降ると憂鬱な気分になるが、いきなり大量の雨が降る様子は爽快でスコールが降るとなんだか嬉しかった。外に出るときは高い服を着てもどうせ濡れるので着たくならない。服装で見栄を張ることもできないため、自然が平等をもたらしてくれていると思った。ベトナムでは朝に早く起きて活動していたため、夜になるとすぐ眠くなった。早く寝て早く起きることはとても気持ちの良いことであり、幸せな気持ちになれた。早寝早起きは今の日本のストレス社会に必要な習慣であると感じた。

終わりに、私はこの研修でとても有益な経験が出来た。現地の学生との交流や知らない国での生活を通じて、感覚や価値観を現地にフィットさせることができた。最初は文化や習慣に対して不可解に感じることもあったが、慣れていくと快適になった。これは観光地を旅行するだけでは得られないものであり、異文化への深い理解につながった。「違い」を「違い」として認めることが異文化交流で最も重要なことだと実感した。

1. ベトナムの生活

【住居】

私は、大家さんの家の中にある一つの部屋で暮らしていました。そのため、家を出るとき帰ってくる時は、基本的に大家さんの家族と顔を合わせることが多く、いつも温かく出迎えてくれました。大家さんはとてもいい方で、困ったことがあったらすぐに連絡を返してくれるし、最終日にはベトナムのお菓子もお土産に持たせてくれました。また、大家さんが飼っている猫がとても人懐っこくて、毎日癒されていました。

部屋は、とても質素でシンプルでした。冷蔵庫・電子レンジ・ポットが用意されていて、バスタオルや大きな扇風機もおいていたのですが、キッチン用具はありませんでした。私は、日本から持っていったドライヤーが壊れてしまい、2週間扇風機で髪の毛を乾かしていたので、ベトナムでも使えるドライヤーを持っていった方がいいと思います。また、洗濯機は屋上に一つだけ用意されているのですが、他の居住者と大家さんも使っていたので、洗濯するタイミングが難しかったです。ただ、洗剤は用意されていなかった所以日本から持っていくのが便利だと思います。



【食事】

家の近くにコンビニやレストランがあったので、数日分をまとめ買いして冷蔵庫に置いたり、レストランで食事を済ましたりすることが多かったです。また、ベトナム学生とのグループ行動の日是一緒にご飯を食べていました。ローカルな食べ物はなかなか一人で食べに行くことはできなかったのですが、ベトナム学生と一緒にだと挑戦できるのでとてもいい経験になりました。ご飯はかなりインパクトのある見た目をしているものが多く、少し不安だったのですがとてもおいしかったです。



【過ごし方】

一人の時間は、カフェ巡りをしたり、家の近くがショッピング街だったので暇さえあれば洋服を見に行ったりしていました。ベトナムはカフェ大国と呼ばれるほど、カフェの数が多くドリンクも種類豊富だったので、毎回店員さんのおすすめを注文していました。

ベトナムの洋服屋さんには、韓国みたいなお店が多くて、とてもかわいい生地もしっかりしているのにも関わらず、日本よりも安く買うことができたので、ベトナムで洋服を買うことをおすすめします。

また、現地で知り合ったベトナム人とお茶することもあったし、同じ家に住んでいたアメリカ人とも仲良くなって、たくさんの出会いもありました。



2. ベトナム人学生の交流と現地での活動

【学生交流】

主に、同じグループになった学生との交流が多かったので、一緒に昼食を食べたりカフェに行ったりすることも多かったです。ベトナム人学生は、とてもシャイなのですがみんな日本人が大好きみたいで、恥ずかしそうに話しかけてくれたり写真を撮ろうとってくれたりしました。ベトナム文化である提灯を一緒に作ったり、ベトナムの月餅を食べたり、一緒に歌を歌ってとても仲を深めることが出来ました。

最後のお別れの日には、手作りでお揃いのキーホルダー作ってくれて、その大学のキーホルダーもプレゼントしてくれました。

【現地の活動】

グループ活動の他に、私は1dayのインターンシップに行きました。そのインターンシップでは、あるサイト運営の問題点と解決の目的をベトナム人エンジニアに向けて、指示書を作成するというものでした。言語の壁がある中でどのように指示書を作成すればいいのか理解し、今後に生かされる大きな学びを得ることが出来ました。

3. この研修で得られたもの

私は、この研修に行ったことで留学に行くことを決意しました。ベトナムという国で暮らし、自分の知らない文化に触れることは怖かったけれど、新しい文化に触れたことで、考え方やものの捉え方が広がったと感じています。短い期間の中で、言葉が通じなかったとしても、人の温かさや優しさを感じることができました。

私は、もともと留学には全く興味がなく英語を勉強することがとても苦手でした。しかし、ベトナムでの生活の中で、最も使った言語は「英語」でした。アジア圏でこんなにも英語が話せる人が多いのがとても驚き、改めて英語を学ぶということは重要だと分かりました。これらがきっかけで留学を決意することができ、人生にとって大きな出来事になったと思っています。

また、私はこのキャリア体験学習のテーマである「ベトナムで一人で生きる」に対して、達成できたと思っています。もともと一人行動が苦手で、あまり自信を持てなかったのですが、この研修を通して「異国の地でひとりで生活することって案外楽しいものなんだな」と思いました。それが自信に繋がって「これやってみたい」「もっと経験してみたい」と思えるようになりました。

私にとってこの研修は、自分自身の成長のきっかけにもなり、簡単には経験できるものではないので、改めてこの研修に参加できてよかったなと思っています。

1 はじめに

9月3日から15日の13日間、キャリアデザイン学部の体験学習としてベトナムを訪れた。アジアと世界の中で生きていくグローバルな人材の育成を目指し、ベトナムや台湾へ2週間の体験学習を実施するこの学習において、ベトナム実習は旅行者としてではなく「異国で生きること」を、現地の生活を通して学びながら、言語教育によることばでの国際交流を体感することを目的とするのである。初めての海外だったが、ベトナムに行って自分を変えたいと思ったことから志望理由フォームを書いたのである。

2 ベトナムでの暮らし

9月3日、4日と江戸屋ホテルに宿泊し、5日に自分の滞在先に移動した。私の滞在先は提携校であるホーチミン科学技術大学から一番遠いところであったため、最初の移動はこの上なく大変だったのを覚えている。現地バスの乗り方や降り方、乗車料金の支払い方など初めての連続であった。そんな思いで着いた滞在先は、一階でスパを営んでいるところだった。言語が拙い私にとって、自分の部屋が何号室なのか大家さんとコミュニケーションをとるのが苦労した。鍵の補完場所を案内され、部屋の中は、ベッドと机シャワーとトイレ、必要最小限の内装ではあったがとても居心地がよかった。家の周りにはギター屋、帽子屋、散髪屋など、現地の人に愛されているようなお店が多くあった。そこから、毎日バスに乗って移動し、ベトナムでの日々を過ごしていった。初めは横断歩道を渡るのに苦労したり、一人で行動し、屋台のごはんを食べたりするのがある種の恐怖だった。しかし、日本と異なる文化、衛生環境、食文化を、身をもって体験できるのはとても新鮮で良い経験であった。大量のバイクの移動に加え、二車線の道路に3台の車が信号を待



っていたり、道路で髪の毛を切っていたり、屋外ということもあるが売り物であるはずの果物に多くの虫が止まっているなど日本では見られないことをベトナムで体験することができた。ベトナムという未知の地では心配になることや不安になることが多々あった中で、心に支えになったのは一緒に来ている9人であった。言語や文化が異なる国で、10人がお互いの支えであったと言える。何日か過ごすうちにベトナムでの生活も慣れ、横断歩道を渡れるようになり、屋台のものを買えるようになり、一人で行動できるようになっ

た。この2週間、異国で生活することでしか味わえない体験ができ、最初は日本とまったく違うことにマイナスな考え方をしていたが、ベトナムという国を実際に体験することで見方や考え方が良い方へ変わったと思う。日本しか知らず、世界に対する視野が狭かったが、ベトナムに行ったことで自分もっていた固定観念が覆ったと感じる。御園生先生と研修メンバー10人でベトナムに行けてとても良かったと心から思う。



3 おわりに

このベトナム研修を通じて、ベトナムの文化や歴史、社会的な背景についても学ぶことができた。現地の方々や学生と交流することで「異国で生きること」の難しさや楽しさもまた実感することができた。私は本研修において得た知見や経験はこれからの人生で大きな糧になると確信している。今回の体験を振り返りながら、自分自身の視野を広げたいと思う。繰り返しになるが、このメンバーで行けたこと、ともに学べたことに感謝し、ベトナムでの経験を今後の成長につなげていきたい。

二週間弱のベトナムでの生活から得られた知見は多くある。今回は本研修で感じたことや現地での暮らしなどを書き記していく。

ベトナムでの初めての食事として、先生と学生全員で食堂に訪れた。ベトナムでは食堂スタイルがポピュラーであり、いくつか品数を選びそれを囲んでシェアする形だ。どれも日本では見ない料理で味の想像がつかず、匂いも慣れていない身からすると正直強烈なもので初日にして心が折れそうだった。翌日からは一人暮らしが始まったので、家の近所のバインミーのお店に行ったりフォーを食べに行ったりした。そもそも異国の地で一人暮らしをすること、お店でも一人でしかも外国語で注文することなど初めての経験だったので緊張したが、お店の人が親切丁寧で、安心した。オススメメニューを指さして教えてくれたり、おいしい食べ方をジェスチャーと簡単な英語で教えてくれたりして、非常に楽しく食事ができた。



一つでも成功体験を覚えると、心に余裕が生まれ、これからが楽しみになりチャレンジ精神も芽生えてくるものだ。次の日からは積極的に店員さんに話しかけることができた。市場にも一人で行き、サンダル値下げ交渉にチャレンジした。買ったあとも座ってお喋りしようと言って椅子を持ってきてくれ、どこから来たの？などの質問をされ会話が弾んだ。会話といっても、ほとんどジェスチャーとリアクションのみだが、これでいいのか！と思うのと同時に、もっと語学力があればもっと深くいろいろ話せたのに、と自分の語学力の低さを痛感した。ベトナム人は英語が上手な人が多い。ローカルなお店やバスの乗務員などはベトナム語しか通じない人もいるが、カフェの店員さんや若者は英語がペラペラだった。カフェで英語で注文したのだが、私の発音が間違っているらしくなかなか伝わらなかったことがある。結局指さして頼んでしまったのだが、その後店員さんが正しい発音を教えてくれたのだ。発音練習をするように繰り返し教えてくれ、非常に嬉しく心が温かくなった。滞在中はほぼ

毎日カフェに足を運んだ。一日に二軒行く日もあったくらいだ。とにかく安いのでカフェには気兼ねなく行き日本にはないようなドリンクを頼んだ。これはベトナムでは有名なカフェチェーンのコンカフェの、シナモンオレンジティーとココナッツコーヒーである。日本だと600円以上するようなものが300円程度で飲むことができた。もっとシンプルなドリンクだと100円程度で飲める。「カフェ大国ベトナム」を存分に味わうことができた。



ベトナムでの生活も半分が経ち、少しは慣れてきたころ街を歩いているとおっちゃんがバイクの移動販売でアイス売っていた。当初は、氷やアイスはお腹を壊しやすく危険という話を聞いて絶対に食べないでおこうと思っていたのだが、意外とビビらなくても大丈夫だなと余裕が出てきたのでアイスを買ってみることにした。味の種類は何があるのかを訊きたかったのだが英語が通じなかったのが、唯一ベトナム語で分かるチョコレート味を選んだ。ベトナム語でチョコレートは“Sô cô la”（ソコラ）といい、フランス語の“chocolat”（ショコラ）と発音が似ているのだ。正直、チョコレートなのかよくわからない味がしたが、アイスを買うことに挑戦できた経験が私には嬉しかった。



ベトナムの街並みは、とにかくバイク、バイク、バイクだ。交通量の多さに誰もが驚くであろう。信号がない横断歩道では、その中を平気で渡ったりしなければならない。信号があってももちろん油断はできないので、常に右手を前に出して制するようにして歩く。町全体の雰囲気は日本では感じられない空気感で、歩いていて楽しい国であると感じる。少しの間ではあったが、ベトナムのことが心底好きになった。また、この研修の目的である「異国の地で一人で生き抜く力をつける」については、多少は備わって帰ってきた自信がある。具体的に何ができるようになったとかがあるわけではないが、なんとなく自分にもできるという自信が付き、失敗を恐れずにチャレンジしてみることの重要さと楽しさを身をもって感じる事ができたのが大きい。そして、異文化コミュニケーションにおいて大切なのは、お互いを理解しようと歩み寄る姿勢と少しオーバーなリアクションであると考えた。前者は当たり前ののだが、後者については初めての海外だったので個人的に強く感じたことである。リアクションがないと、ちゃんと伝わっているのか、逆に全く伝わっていないのかが分からない。話すときはオーバーすぎるくらいのリアクションをし、言っていることが分からないなら分からないなりの困ったようなリアクションをするなど心がけていた。そうすると、さらに丁寧に教えてくれたり話が広がったりした。言葉が十分に伝わらないその分、リアクションをしっかりすることで円滑なコミュニケーションができることが大きな学びになった。



ベトナムでの生活は毎日が新鮮で学びでした。ベトナムでの経験を様々なテーマに分けて報告します。

【交通】

交通は驚きそのものでした。道路に走るバイクは日本で見たことないほどとても多く、車間距離も近く、1台に四人乗せていたり、逆走していたりするバイクもありました。日本では当たり前の交通ルール、順路が決して共通ではないことを学びました。またバイクに乗っている多くの人はマスクをしており、現地の学生に聞いたところ排気ガス対策だと知りました。以前はバイクに乗っている人がマスクをつけることは少なかったけれど、コロナによってマスクを着用する人が多くなったそうです。また、日差しが強いため、ラッシュガードを着用している人も多かったです。たまにもものすごい荷物を積んでいるバイクも



見かけ、体幹がとても鍛えられると確信しました。現地の方が乗っているバイクや車は、日本製のものが多かったです。そして移動に何より役に立ったのが「Grab」でした。

「Grab」は日本でいうと「Uber」のような、配車や食事を届けてくれるサービスです。乗り物はバイクと車の2種類あります。日本のタクシー代は高いですが、ベトナムでは基準を満たした一般ドライバーが運転しているため、安く乗る事ができました。公共交通機関としては、とても安い料金で乗れるバスも利用しましたが、Grabの配車のほうが確実に目的地まで連れて行ってってくれるので頻繁に利用していました。

【アパートでの1人暮らし】

アパートの住所は合っていたものの、実際はマップが示している場所とは全く違うところにアパートがあり、現地の方に住所を見せると連れて行ってくれました。しかし大家さんがおらず、「本当にここで合っているのか」と泣きそうになりましたが、30分ほど経って現れました。名前を言うと中に入れてくれ、指紋認証で玄関に入り、3階の部屋鍵をもらいました。外は出るときはパスワードを打ち込んで扉が開くようになっていました。大家さんとはベトナム語のみの会話であり、スマートフォンの機能を使用して会話しました。冷蔵庫には飲みかけのボトルがありました。ウェルカムドリンクとしてお水を2本いただ



きました。素敵なベランダがありましたが、鍵がかかっていて出る方法が分からず洗濯物を干せなかったため、室内の至るところにハンガーをかけ、洗濯物を干していました。調理器具も揃っていました。お部屋には小さいアリが先住しており、荷物に入らないようチャックを閉めたり、甘いものは置かないよう気を付けたりして生活しました。ベッドも広く、シーツも3日に1回変えてくださいました。掃除は週に1回ほどでした。生活していて慣れるのに1番時間を要したのが、振動でした。そのアパートは主要道路の近くにあったためトラックなどの重い車が通ると、振動が伝わって地震のような感覚を味わいました。特に就寝時の振動は目が覚めてしまうほどで、振動に慣れて寝られるようになるのに4日ほどかかりました。私のアパートの周りは中心部から少し離れた場所だったので有名なチェーン店がなく、オリジナルのカフェや食事屋さんがありました。なので、学校からの帰り道にオリジナルのカフェに寄ったりしていました。「ラーメン」を注文したところ、ビーフンのような日本の焼きそばが運ばれてきたことは良い思い出です。オーナーは日本に留学していたので日本語で会話でき、日本にも数年住んでいたことがあるそうです。ベトナムでの生活は外食が安価に食べられるので外食が主でしたが、学校の近くの「co・op mart」というスーパーを3日に1回ほど利用してフルーツや食材を買っていました。そこでは日本のものも売られていて、「Kit Kat」や「柿の種」などのお菓子がたくさん置かれていました。

特にベトナムでは「抹茶」のお菓子やドリンクがとても人気だそうです。また HUTECH 大学まで行くためには横断歩道を渡らないといけず、はじめのうちはバイクや車に圧倒されて10分ほど足踏みして渡っていましたが、5日も経てば慣れてきて、バイクや車の列が空いているルートを見つけることができました。

【食事】

サイゴンはレベルの高いカフェがたくさんあり、とても充実していました。お手頃な価格でおいしい一杯が飲めるので、時間ができたらカフェに行くようにしていました。最近ベトナムではアボカドが流行っているらしく、現地に住んでいる日本人の方にアボカドコーヒーを勧められ、挑戦してみました。アボカドの苦さがアボカドの程よい甘さによってマイルドな味になり、とてもおいしかったです。また、塩コーヒーも私のお気に入りの飲み物の一つで、甘いコーヒーに塩味が感じられてとてもおいしかったです。帰国してもベトナム料理屋さんに行って塩コーヒーを頼んだりするほど、私にとって魅力的な出会いでした。ベトナムは果物がとてもおいしく、日本で味わっ



たことのなかった若いマンゴーや甘みのあるドラゴンフルーツ、龍眼などをよく食べていました。またライスペーパーとともにバナナの茎を食べたりしていました。スーパーでも購入してたくさん食べていました。店内にあったドライフルーツも種類が豊富で、パッションフルーツのドライフルーツに挑戦しましたが、おいしかったです。お土産として渡したマンゴーのドライフルーツや粒が大きかったカシューナッツはとても評判がよかったです。果物が新鮮なので果物を使ったドリンクもとても充実していました。カフェでいただくのはもちろんのこと、HUTECH 大学の学校前で開いていた長蛇の列があったスムージーの屋台では、現地の学生が注文してくれて一緒にアボガドバナナスムージーをいただき、とても美味しかったです。外食の際によく飲んでいたパッションフルーツジュースも最高でした。スーパーではナッツやドライフルーツをたくさん購入し食べていました。特にマンゴーのドライフルーツやカシューナッツがおいしく、お土産として渡した際も評判が高かったです。外食では安価で美味しいフォーやバインミーをたくさん食べることが出来ました。フォーは種類が豊富で、優しい味つけでした。またバインセオや揚げ春巻き、現地の学生と食べたピーナッツのつけだれと牛肉のバインミーは忘れられない美味しさです。

【現地の学生との活動】

HUTECH 大学の学生は親切な方が多くいらっしゃって、とても良くしてくれました。仲を深めるきっかけとなったのは、日本のアニメでした。「名探偵コナン」や「クレヨンしんちゃん」、「推しの子」の話で息が合い、仲を深めることができました。私よりも日本のアニメをたくさん知っていて、日本のアニメの影響力を強く感じ、もっと自国の文化理解



を深めたいと思いました。日本語を学んでいる理由を聞いたところ、多くの学生から「日本のアニメが好きだから」と言っていました。またベトナムの学生とご飯を食べに行った際バイトの時給の話になり、ホーチミン市では、お店でドリンクを一杯飲むには2時間働かなければならないそうです。大学進学を機

に地方からホーチミン市へ来たある学生は、親に迷惑をかけたくないとのことで学費以外の家賃や食費を自分で支払っており、貯金する余裕がないと言っていました。私は日本の物価からの視点で「ベトナムは安くていいね」とたくさん言ってしまいましたが、現地で生活する方大変さを知りました。また日本とは異なり、ベトナムでは地方から来た学生はシェアハウスする人が多く、一人暮らしをする学生は少ないそうです。

【最後に】

この研修を通して、私は多角的な視点を養うことが出来ました。これまで当たり前だと思っていたことがベトナムでは当たり前でなく、自分がこれまでいかに小さい視点で物事や世界を見ていたことに気づかされました。そして挑戦すること、周りの目を気にせず自分のやりたいこと貫く姿勢を身に着けることが出来ました。周りの目を気にして何かと理由をつけ、やりたいことを実現してこなかった私ですが、ベトナムに滞在した期間で自分自身を見つめ直すことができました。またベトナムの学生が楽観的な考え方を持っている人が多かったため、私も自然と柔軟性と楽観的なマインドを持つことが出来ました。そして自分が周りの人にいかに支えられているかを実感した研修でした。本研修の目的は「1人で海外を行動し、1人で行動できる人間になること」ですが、実際1人で行動してみたら自分でやらなければならないことが多くあり、普段いかに周りの人に頼って支えられながら生活していたかを痛感しました。ベトナム滞在2日目にアパートに到着し、一人暮らしする時は不安でいっぱいでしたが、最終日は帰国したくなるほど、思い出がたくさんでき、充実した時間を過ごすことができました。本研修が私にとって初めての海外であり、世界の広さと自分の成長を体感できた、大変貴重な機会でした。

参考:ホーチミン穴場マップ



キャリア体験学習【国際】ベトナム

【参加学生】

(法政大学)

伊藤 早慧
小松崎 万絢
蛭田 明花音
油井 千明
河内 璃子
相樂 空
仲本 瑞希
遠藤 直
藤尾 美玖
阿部 礼佳

(ホーチミンテクノロジー大学)

Trương Thị Ngọc Hân
Dương Chí Vỹ
Trần Thị Ánh Thi
Huỳnh Thị Ngọc Trâm
Lê Phương Thảo
Nguyễn Trần Vĩ
Phí Ngọc Đức
Võ Hà Trúc Chi
Lê Phạm Bảo Hân
Lê Văn Cửa
Nguyễn Kim Huyền Trang
Võ Tấn Khanh
Hồ Thị Châu Thuận

【担当教員】

(法政大学)

御園生 純
笹川 暁子 (CA)

(ホーチミンテクノロジー大学)

Hồ Tố Liên (Dean)
Đoàn Thị Minh Nguyệt (Vice Dean)
Hồ Thị Kim Anh
Phạm Lê Uyên
Trần Thị Kiều Oanh
Đỗ Thị Xuân
Nguyễn Thị Bé